

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

愛知県 豊山町

自治体名：愛知県豊山町

担当課名：教育委員会事務局生涯学習課

電話番号：0568-28-0396

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	6.18 km ²
人口	15,979 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	490 人
部活動数	9 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

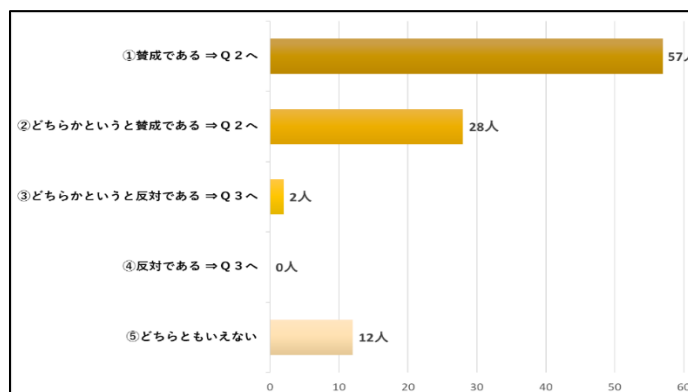
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、本町にある中学校は1校のみであり、運動部活動は、サッカー、野球、女子バスケットボール、ソフトボール、男女バレーボール、軟式テニス、男女卓球の7種目9クラブが活動している。「豊山町部活動指導ガイドライン」に沿って実施しており、入部は希望制だが、全校生徒の約95%がいずれかの部活動に所属している。

また、野球部に関しては、土日のどちらかを本町スポーツ少年団が中等部として野球部員のみを対象に活動を実施している。部活動の顧問との連携もできており、本町における地域移行のモデルケースといえる。

課題としては、受け皿として同じ種目の団体が無いことや、指導者不足があげられる。本町生涯学習課が小学生向けに土曜日の講座として運営している総合型地域スポーツ・文化クラブ「わくわくらぶ」を受け皿にという話も生涯学習推進審議会であがっているが、種目が中学校部活動とは異なるため、なかなか進んでいない。また、令和5年度に実施した教職員、向けのアンケートでは概ね地域移行に賛成の回答が多いが、中学校において方向性が決まっておらず、今後、学校関係者を含めたプロジェクトチームを発足し、検討していく必要がある。

Q. 休日の部活動を地域が担うことについて、どう思われますか。

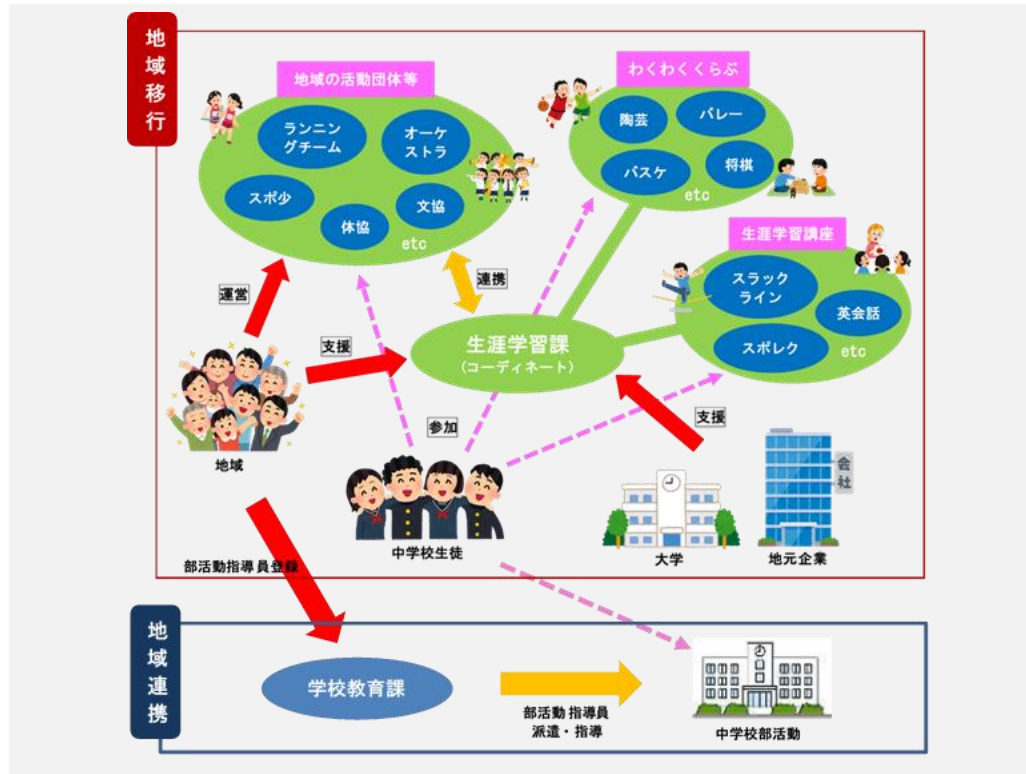


【調査対象者】
町内小中学校教師 105人対象
アンケート回答者 99人
(回答率 94.3%)

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- 生涯学習課：地域移行における受け皿の整備
- 学校教育課：中学校における方針の決定
地域連携における指導員の派遣・指導

年間の事業スケジュール

令和6年6月 ～翌3月	実証事業実施
令和6年9月	第1回生涯学習推進審議会
令和7年2月	第2回生涯学習推進審議会
令和7年4月	プロジェクトチーム始動予定

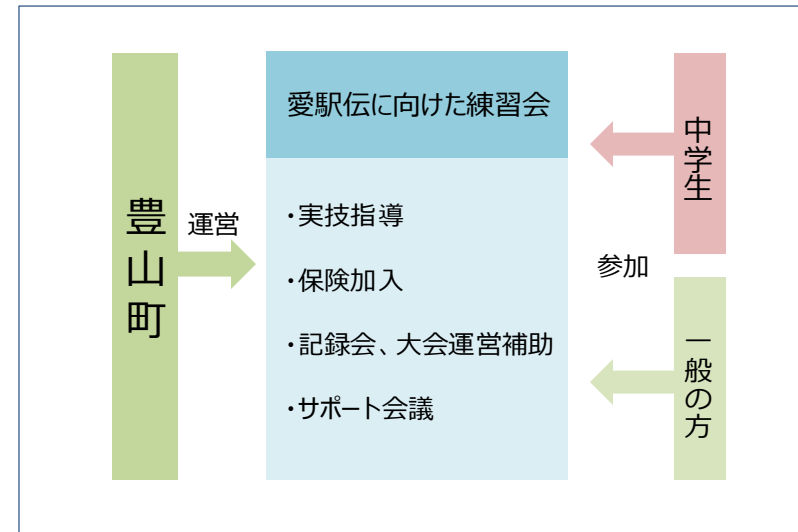
2.実証内容と成果

主な取組例

●愛知駅伝に向けた練習会 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上（長距離走）
運営団体名	豊山町教育委員会事務局 生涯学習課
期間と日数	6～8月、12～翌3月：週1回 9～11月：週2回
指導者の主な属性	町内で活動するランニングチーム （指導者保持者）
活動場所	豊山グランド
主な移動手段	自転車、徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 子ども1人あたり：800円/年 大人1人あたり：1,850円/年 ※参加者の自己負担なし

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 監督 1名
役割：指導・運営の統括を行う
- コーチ 1名
役割：技術指導を行う
- サブコーチ 2名
役割：技術指導及びコーチの補佐を行う

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0 クラブ（0 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導者数	4 人	全体の運営スタッフ数	4 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
愛知駅伝に向けた練習会	地方自治体	陸上（長距離走）	6～8、 12～翌3月： 週1回 9～12月： 週2回	19：00 ～ 21：00	未就学児から60歳以上まで幅広く	5～翌3月	豊山グラウンド	4 人	4 人 （内、兼務0人）	無料	愛知駅伝、各自で目標を持って希望の大会に参加

③その他、体験会やイベント等の開催実績

体験は随時受付している。イベントではないが、代表選手を決める選考会や大会本番は、一般の参加者にも来てもらい、応援やモチベーションアップに繋がってもらっている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

毎年開催している愛知駅伝に出場する代表選手向けの練習会を、広く一般の方が参加できるようにリニューアルした。

参加者は未就学児から60歳以上と幅広く、「楽しく走りたい」「長距離走での正しい走り方を知りたい」「健康のために」と様々な理由で参加している。

また、町内の中学校には陸上部がないため、その受け皿としての機能も果たしている。

活動の詳細

参加人数	70人	指導者数	4人
属性	町が運営する講座		
具体的な内容	愛知県内の全市町村が参加し、12月に開催される「愛知駅伝」に向けた練習会を、例年は大会に出場する選手のみを対象に実施していたが、町民が誰でも参加できるようにリニューアルして実施した。		
子供の声	● 団結力が深まってとても良かった ● 走ることが好きになった ● 沢山のひととスポーツを通して繋がることができて嬉しかった ● 初めての参加でわからないこともたくさんあったけど楽しかったしいい経験になった		
関係者の声	● 幅広い年代の方達と練習会での交流ができ、親子での参加も見られて、お互い高め合っの練習が出来た ● 皆の距離が近く、和やかなムードが良い所だと感じています ● 来年度は指導者として参加したい		
運営経費	消耗品費：243,215円 保険料：87,350円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

○保護者も一緒に参画するスポーツ活動の取組

・保護者が、生徒と一緒にスポーツを楽しんだり、生徒に教えたり、運営を手伝うなど、地域スポーツクラブ活動の運営に参画した。

○世代間交流に関する取組

・右表のとおり、高校生や大学生、社会人なども多く参加しており、合同で練習を行った。

○学びの循環

・この練習会に参加した子供たちが技術を磨き、大人になり次の世代の子供たちを教えるといった学びの循環を目指す。

今後の課題と対応方針

○中学生の参加者が少ない

→令和7年度以降、プロジェクトチームにより中学校における方針を検討し、生徒や保護者に地域移行や地域スポーツクラブ活動について丁寧に説明していく。

○年齢区分別参加者一覧

区分	性別	年齢
未就学	男	1
	女	0
小学生	男	19
	女	10
中学生	男	4
	女	3
高校生	男	3
	女	2
大学生	男	2
	女	1
一般	男	17
	女	9

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

中学生の参加者は想定よりも少なかったが、他の世代で多くの方が参加してくれたことにより、部活動の地域移行による「世代間交流」や「学びの循環」におけるモデルケースになっている。また、参加者の中から、来年度は指導者として関わりたいという方も出てきている。

●成果の評価

アンケート等は実施していないが、「楽しかった」という声や「今後も続けてほしい」という話を聞いている。また、愛知駅伝への参加（選手以外は応援）であったり、各個人で目標としている大会（名古屋ウィメンズマラソン等）への参加も確認できており、概ね良好であったと評価する。また、指導者から、来年度以降も継続して関わっていききたいという声ももらっている。

●今後に向けて

来年度以降も同様の取り組みを実施する予定である。中学生により多く参加してもらえるよう、プロジェクトチームにおいても地域移行・連携について検討をしつつ、生徒・保護者への周知していきたい。また、別の種目や文化系の種目にも同じような取り組みを拡大していくことも検討する。

2.実証内容と成果②

参考資料（活動写真）



【練習会】



【代表選手選考記録会】



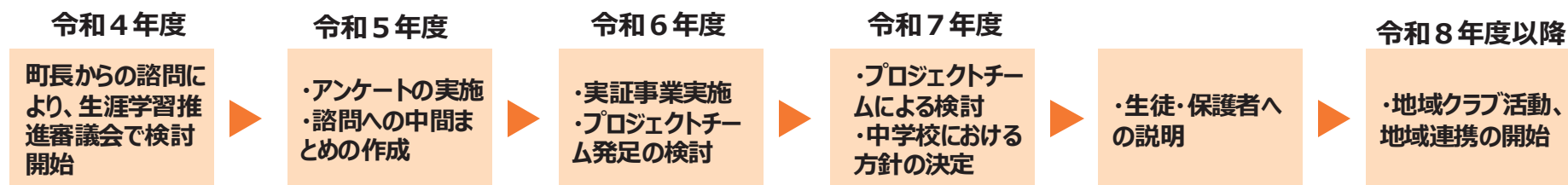
【大会下見】



【大会当日】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、町教委（学校教育課、生涯学習課）
体育協会、スポーツ少年団、競技団体

経過

令和4年度より生涯学習推進審議会で「部活動の地域移行について」検討を開始した。令和5年度末にかけて、課題の洗い出し、受け皿や指導者の検討をし、町長からの諮問への「中間まとめ」を作成した。

実施内容

令和5年度に、教職員・小中学校生徒・保護者向けのアンケートを実施した。教職員については概ね地域移行に賛成の回答が多かった。また、生徒・保護者については、そもそも地域移行についてよくわかっていない方も多く、部活動の地域移行について、今後しっかりと説明していく必要があることがわかった。

実施にあたって生じた課題

生涯学習推進審議会で検討している受け皿と、中学校における部活動の種目に相違があること、また、中学校における方針が定まらない中での実証事業の実施だったため、思ったよりも中学生の参加者が少なかった。

今後の展開

令和7年度からは、教育専門員1名、学校教育課1名、生涯学習課1名、中学校校長1名、小学校教頭1名からなるプロジェクトチームを結成し、方針を検討していく。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

【これまでの経緯】

○令和4年8月31日 諮問「部活動の地域移行について」

中学校の部活動の地域移行を中心課題として、本町における生涯学習体系の再編も視野に入れ、生徒の休日におけるスポーツ・文化活動の機会の確保について、生涯学習推進審議会に意見を求めた。

○審議経過

- ・第1回 令和4年 8月31日 諮問
- ・第2回 令和5年 3月20日 国・県の動向の確認 実践研究事例
- ・第3回 令和5年 9月25日 町の資源の整理 今後の方向性の検討
- ・第4回 令和6年 2月27日 アンケート調査結果の報告
- ・第5回 令和6年 3月28日 「中間まとめ」

○「中間まとめ」における基本的な考え方

- ①生徒たちの活動環境の充実
- ②休日からの段階的な移行
- ③学校における「働き方の改革」の推進
- ④課題とその対応の洗い出し

R5年度末 生涯学習推進審議会（中間まとめ）



R7年度中 部活動地域移行プロジェクトチームによる検討



R7年度末 生涯学習推進審議会（最終まとめ）

【今後の方針・方向性】

国の方針及び本町の「中間まとめ」に沿って、部活動の地域移行を進める。

【当面の対応（案）】

「部活動地域移行プロジェクトチーム（仮称）」の設置（令和7年度）

○目的

部活動の地域移行について、個別具体的に深く議論を進める。

○プロジェクトチームのメンバー

- ・教育専門員 1名
- ・学校教育課 1名
- ・生涯学習課 1名
- ・中学校校長 1名
- ・小学校教頭 1名 5名

○個別具体的な事項

- ・関係諸団体等への周知方法
- ・関連諸制度の確認と動向
（学習指導要領改訂、高校入試制度、大会の在り方等）
- ・指導者関係
（教職員の兼職兼業、部活動指導者等）
- ・必要な財源の確保
（人件費、施設使用料、受益者負担等）
- ・地域資源 他

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

愛知県 大治町

自治体名：愛知県 大治町

担当課名：教育委員会スポーツ課

電話番号：052-443-7077

1.自治体の基本情報

基本情報（令和7年2月時点）

面積	総面積6.59 km ²
人口	33,606 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	996人
部活動数	17 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、当町の大治中学校は、17の運動部活動が活動している。

現在、本町は人口減少はなく、どの部活動も部員数が多く、限られた施設や時間の中での活動に苦慮している。

改革推進期間である3年間で、生徒、保護者、教職員のニーズに合わせた活動を第一に進め、同時にモチベーションの下がらない教職員の働き方改革の推進も目標とし、地域展開を進める。

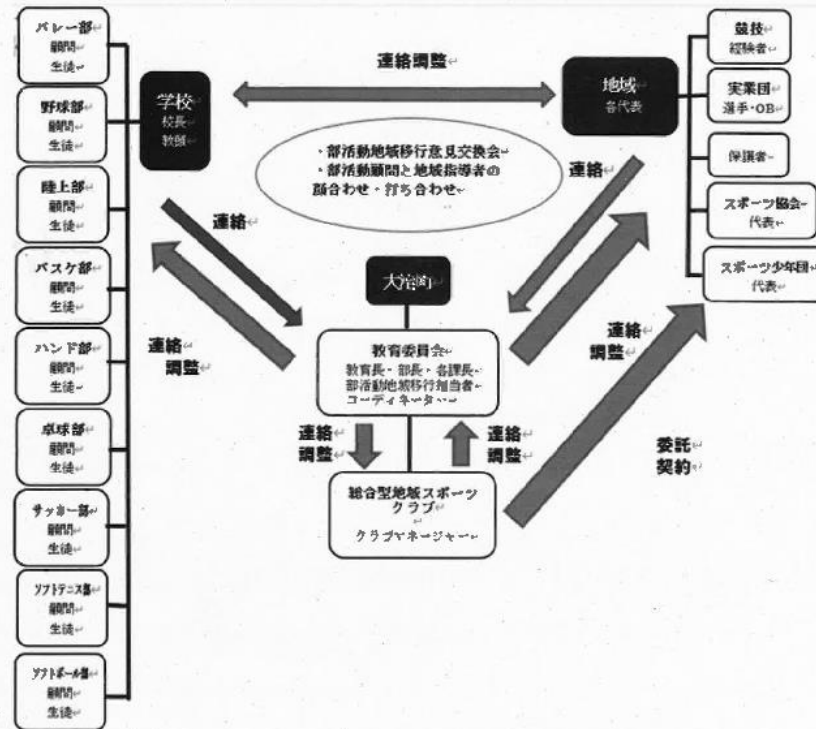
また、長年にわたって部活動は、学校教育の一環で運営するものという考えが生徒、保護者、地域に根付いている。地域展開を進めるに当たり、地域展開によってニーズに合った活動ができること、ただし受益者負担が必要になってくることを保護者や関係者が認識することが必要であり、家庭の事情で参加できない生徒が出ないようにすることや、信頼できる指導者の掘り起こし、確保も同時に進めていかなければならない。

部活動名	男 子				女 子				合計 (人)
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	
1 野 球	7	7	11	25					25
2 水 泳	3	12	10	25	7	3	5	15	40
3 ハンドボール	19	18	13	50	15	12	8	35	85
4 バスケ	9	15	16	40	10	10	4	24	64
5 バレーボール	19	7	19	45	15	11	6	32	77
6 サッカー	16	16	19	51	0	0	0	0	51
7 ソフトテニス	7	10	10	27	12	9	7	28	55
8 卓 球	5	7	9	21	13	14	5	32	53
9 ソフトボール					9	6	6	21	21
10 柔 道	5	2	7	14	2	3	1	6	20
11 剣 道	1	6	2	9	3	1	4	8	17
12 陸 上	17	15	13	45	18	11	7	36	81

R6 大治中学校部活動参加生徒数

2.実証内容と成果

運営体制・役割



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・スポーツ課…部活動改革の主幹、学校や地域クラブとの調整・連携、総合型地域クラブとの連携
- ・学校教育課・社会教育課…中学生の地域スポーツ・文化活動の環境整備

年間の事業スケジュール

- | | |
|---------|---|
| 令和6年 4月 | 中学校PTA総会で保護者へ部活動地域連携について説明 |
| 令和6年 5月 | 地域クラブ活動（野球・バスケットボール・バレーボール・陸上）開始 |
| 令和6年 6月 | 第3回大治町部活動意見交換会実施 |
| 令和6年 7月 | 中学校教職員へ説明とアンケート実施 |
| 令和6年 9月 | 小中学生と保護者へニーズ調査アンケート実施
(対象：小5～中2) |
| 令和6年11月 | 中学校入学説明会で保護者へ部活動地域連携について説明
第4回大治町部活動意見交換会実施
地域指導者面談開始 |
| 令和6年12月 | 中教職員へ地域連携希望調査アンケート実施・顧問面談開始 |
| 令和7年 2月 | 第5回大治町部活動意見交換会実施 |
| 令和7年 3月 | 近隣市町村で部活動地域移行情報交換会を開催 |

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	6 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		6 クラブ（6部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	21 人	全体の運営スタッフ数	3 人（6クラブ兼務）

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
野球クラブ	A	野球	月 1 回	9時～12時	3年10人 2年5人 1年7人	R6.5.11 ～ R7.2.22	大治町営 野球場	6 人	3 人 （内、兼務3人）	0円	なし
バレーボールクラブ	A	バレーボール	月 1 回	13時～16時	3年24人 2年18人 1年32人	R6.5.19 ～ R7.2.9	大治中学校 校体育館	7 人	3 人 （内、兼務3人）	0円	なし
陸上クラブ	A	陸上	月 1 回	9時～12時	2年15人 1年27人	R6.9.28 ～ R7.2.22	大治中学校 校運動場	2人	3 人 （内、兼務3人）	0円	なし
バスケットボールクラブ	A	バスケットボール	月 1 回	9時～12時	3年9人 2年23人 1年19人	R6.5.18 ～ R7.2.15	大治中学校 校体育館	6 人	3 人 （内、兼務3人）	0円	なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

なし

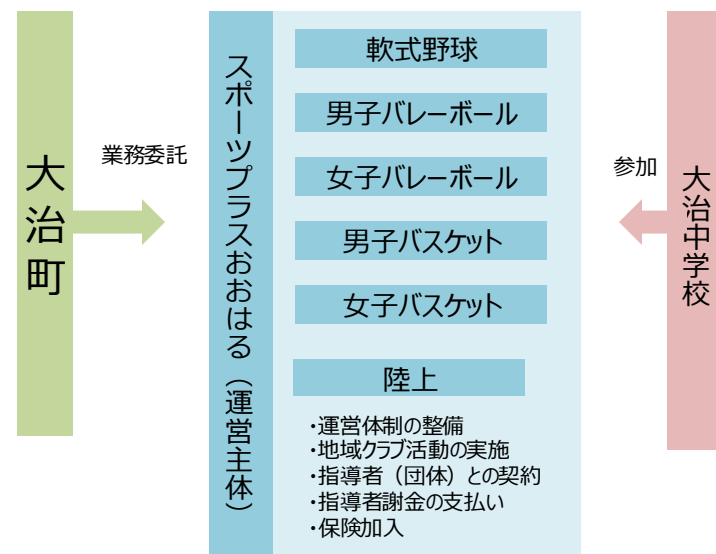
2.実証内容と成果

主な取組例

●スポーツプラスおおはる 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	男子バスケット、女子バスケット、軟式野球、陸上、男子バレーボール、女子バレーボール
運営団体名	総合型地域スポーツクラブ スポーツプラスおおはる
期間と日数	5月11日～2月22日 月4～5回程度
指導者の主な属性	実業団
活動場所	大治中学校、大治町営野球場
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者（部活動地域移行推進コーディネーター）
役割：活動における管理者として、学校、保護者、指導者との連携を行う
- 主任指導者 各クラブ1名
役割：活動における主任者として、生徒への指導と日程等の連絡調整を行う
- 運営補助者（部活動地域移行推進コーディネーター、行政担当者）
役割：施設の開錠・施錠、参加者、指導者の出欠確認、緊急時の連絡

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○広域的な活動を行うコーディネーターを1名配置し、関係団体・市区町村との連絡調整・指導助言等を行った。

○運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行った。

○参加者管理、参加者・指導者への連絡、日程、会場の調整等にICT活用のための整備を行った。

○施設や練習日調整のため学校管理職と密に連絡をとった。

取組の成果

○コーディネーターを配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。

・運営主体であるスポーツプラスおおはるとの打ち合わせ・・・月1回

・指導団体との打ち合わせ・・・随時

○地域スポーツ・文化団体、PTA、学校運営協力団体との効果的な連携を図り、運営団体・実施主体と中学校の連絡調整等を行うことができた。

・部活動地域連携関係者による意見交換会・・・年3回

・学校管理職との打ち合わせ・・・随時

・部活動顧問と面談・・・年2回以上

○日程調整、指導者や顧問との連絡、参加者への緊急時の連絡について途中から連絡アプリを導入したことにより、天候不順による練習中止連絡がスムーズに行うことができた。

○小学校の管理職とも連携したことにより、中学にあがる前から町の部活動地域連携について、児童や保護者へ情報を伝えることができ、入学してからの大きな混乱がなかった。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【コーディネーター】

・毎月、各クラブを巡回し、課題等のヒアリング・助言等を実施

・町意見交換会を実施し、関係団体との連携に努めた。

・学校、参加者、指導者への連絡調整を実施

今後の課題と対応方針

●学校、地域指導者、関係団体等との連携は不可欠であるが、現在は、一人のコーディネーターと行政担当者二人で対応している。今後、指導者以外の運営補助員の配置と、コーディネート業務を担う人材の発掘・育成、資質向上を図る方策の検討が必要。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

・令和6年1月からスポーツ課主催のスポーツ教室指導団体を訪問と保護者アンケートを実施し、指導者の確保に努めた。

・現在の指導者は、実業団やプロなので、毎月巡回して活動を確認し、生徒・中学校顧問より聞き取りを行い、適切な指導の確認を行った。

スポーツ教室指導者数

10団体

応募者・紹介者数

職業

・会社員 19人

・自営業 4人

応募のきっかけ

・アンケート 52.2%

・知人の紹介 43.5%

・窓口 4.3%

種目

軟式野球
バレーボール
バスケットボール
ハンドボール3団体
陸上
卓球
新体操
空手
柔道
剣道

資格有無

・JAAPジュニア陸上公認コーチ
・バスケットボール審判E級・コーチE級
・教員免許（保体）

取組の成果

・地域連携を希望する部活動について、地域クラブ指導者として7団体と4人を確保できた。

・毎月1回、指導者と打合せを行い、指導内容の確認と指導の質向上につなげた。

・地域指導者と部活動顧問のスムーズな連携のため2か月に1回程度連絡をとり、情報共有・意見の聞き取りを行ない、必要な対策を講じることで生徒の混乱を防ぐことができた。

・生徒や保護者だけでなく、部活動顧問が信頼する指導者確保のため、企業訪問や顧問、指導者からの聞き取りや説明を行うことで、中学校のほとんどのスポーツ部活動で令和7年度の地域クラブ活動を実施することになった。

クラブ名	指導者（きっかけ）
①野 球	町スポーツ教室指導者 保護者アンケート
②バレー	町スポーツ教室指導者 保護者アンケート
③陸 上	町スポーツ教室指導者 保護者アンケート
④バスケ	町スポーツ教室指導者 保護者アンケート
⑤卓 球	町スポーツ協会 紹介
⑥ハンド	紹介 保護者アンケート
⑦サッカー	町スポーツ教室指導者
⑧ソフト	保護者
⑨テニス	保護者
⑩柔 道	スポーツ少年団
⑪剣 道	スポーツ少年団
⑫新体操	保護者アンケート
⑬ダンス	保護者アンケート
⑭空手	保護者アンケート

地域クラブ指導者就任のきっかけ

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

・令和6年度は、指導者が実業団・プロのため、毎回の見回りや聞き取りを実施して研修は実施せず

指導者研修の参加実績

・実施せず

参加生徒から指導に対する声

【聞き取りによる声】

・「わかりやすい」・・・9割以上

・「やさしい」「丁寧な指導」・・・9割以上

・「その他」・・・「わからないことはすぐ教えてくれる」

「指導者がやって見せてくれるからよくわかる」

今後の課題と対応方針

○今年度は、すべてがプロのスポーツ指導者だったので、技術研修は行わなかった。来年度からは、地域クラブ指導者に対して、技術指導だけでなくコンプライアンス研修も含め行う必要がある。今後、どの水準まで質を求めるかについては検討する。

○平日と休日の指導者間の効率的・効果的な連携方策について、ICT機器を活用していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○学校や地域がスムーズに連携して進めていくため、町内小中学校長や小中学校PTA会長、町内スポーツ協会、スポーツ推進員等が参加する意見交換会を令和6年度は3回実施し、本町の取組及び今後の見通し等を説明し、意見を聞いてよりよい地域連携につなげていった。

取組の成果

○本町意見交換会を実施し、学校や地域団体の協力を求めることで、町内中学校の生徒や保護者に事前周知や募集チラシの配布を行うだけでなく、教職員や新入生保護者会で活動の周知をする機会を得た。

○地域のスポーツ団体の理解を得て、指導者確保がスムーズにできた。

○地域クラブが活動するときは、指導者が競技種目の指導のみに集中できるよう、会場の施錠、開場や参加者の出欠確認などを行う運営補助員の配置が必須であり、クラブ活動を巡回することで、どのようなことを依頼するか確認することができた。

番	役 職	番	役 職
1	教育長	16	大治南小学校長
2	教育部長	17	大治西小学校長
3	大治中学校PTA会長	18	スポーツプラスおおはらクラブマネージャー
4	大治小学校PTA役員	19	スポーツプラスおおはらクラブマネージャー
5	大治南小学校PTA会長	20	子ども応援本部長
6	大治西小学校PTA会長	21	学校教育課長
7	スポーツ少年団本部長	22	学校教育課主幹
8	スポーツ協会会長	23	学校教育課係長
9	文化協会会長	24	社会教育課長
10	スポーツ推進委員会会長	25	社会教育課主幹
11	スポーツ推進委員会副会長	26	社会教育課主事
12	社会教育委員代表	27	スポーツ課長
13	大治中学校長	28	スポーツ課係長
14	大治中学校 体育主任	28	部活動地域移行支援コーディネーター
15	大治小学校長	29	スポーツ課主任

町意見交換会出席者

意見交換会の実施

・日時 6/20 11/21 2/4

・参加者役職

教育長、小中学校長、部活動担当教員、PTA会長、スポーツ協会会長、スポーツ推進委員会会長、文化協会会長、社会教育委員、行政担当者、総合型スポーツクラブマネージャー

協議内容

・指導者の質と量の確保

・部活動と地域クラブ活動のスムーズな連携

・実施回数

・受益者負担

・運営事務局の整備

今後の課題と対応方針

○競技団体や総合型地域スポーツクラブ、民間事業者等の多様な団体に参画してもらう必要があるため、更なる連携強化を図る。

○運営業務の効率化を図るため、アプリやシステムの活用を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○海部地区は7市町村で教職員の人事異動があるため、海部地区の部活動地域移行担当者やコーディネーターと情報交換を行い、教職員が移動しても混乱しないように情報交換会を実施し連携強化を図った。

各自治体の取組状況

○大治町教育委員会

- ・R5.4月 コーディネーター配置
 - ・R8.4月 土日の部活動を地域クラブへ移行の予定
- ###### ○弥富市教育委員会
- ・R6.4月 コーディネーター配置
 - ・R9.9月 土日の部活動を地域クラブへ移行の予定
- ###### ○あま市・愛西市教育委員会
- ・R7.4月 コーディネーター配置
 - ・R9.9月 土日の部活動を地域クラブへ移行の予定

○蟹江町教育委員会

- ・R7.1月 コーディネーター配置
 - ・R9.9月 土日の部活動を地域クラブへ移行の予定
- ###### ○飛島村教育委員会
- ・R6.4月 業者委託で土日の地域クラブを実施
- ###### ○津島市教育委員会
- ・R9.9月 土日の部活動を地域クラブへ移行の予定

取組の成果

○7市町村で情報交換を行った結果、各自治体の指導者確保や施設の有効活用、今後の方向性がわかり、本町の地域クラブ活動の目指す姿が明確になった。

今後の課題と対応方針

○今後、市町村の枠を超えて7市町村で地域クラブを実施し、生徒や地域指導者が参加したい地域クラブで活動できるような環境づくりのため、7市町村でさらなる連携強化をしていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○令和6年度は、地域クラブ活動が月1回の土日実施で、他の土日は学校部活動を行っており、生徒が混乱しないように学校部活動と地域クラブ活動の連携が大変重要である。部活動顧問、地域クラブ活動指導者、参加生徒の声を巡回して聞き取り、対策が必要なときは、担当者や運営主体のスポーツプラスおおはると検討会を行った。

○部活動と地域クラブ活動の参加に混乱が生じないように小学生のうちから地域クラブ活動に近い体験（スポーツチャレンジ）ができるプログラム構築した。

活動の詳細

参加人数	地域クラブ 中学生186人 スポーツチャレンジ 小学生303人
指導者数	地域クラブ 18人 スポーツチャレンジ 8人
具体的な内容	・地域クラブ・・・各種目の基礎基本練習、スキルアップ、ゲーム、記録測定 ・スポーツチャレンジ・・・発達段階に合わせたコーディネーショントレーニング、バドミントン、卓球、フットサル、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、ドッジボール、野球、クロスミントン等体験
子どもの声	・地域クラブ・・・レベルの高い練習方法を教えてもらってスキルアップにつながった。 指導者の教え方がわかりやすくよく理解できた。 指導者が多くいるので、1年生までしっかり教えてもらうことができた。 ・スポーツチャレンジ・・・学校外でボールを使って遊ぶ場がないのですごく楽しかった。 いろいろなスポーツが体験できて楽しかった。また参加したい。
関係者の声	・顧問・・・プロの方が指導して下さり、顧問も勉強になった。生徒が楽しいと言って参加している。 ・指導者・・・顧問が信頼して下さってやりやすい。もっとチーム練習も教えてあげたい。
工夫した点	・学校部活動が主で、月1回の活動である地域クラブはスキルアップと役割を決めた。 ・コーディネーターが毎回巡回し、指導者、生徒の声を聴いて対策を行った。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

○「部活動地域連携希望調査」を実施し、生徒や保護者、教職員のニーズ把握に努めた。

大治町 部活動地域連携 希望調査アンケート (教職員 40人)		
A	土日すべてを大治中の教職員ではない地域の指導者が指導	50%
B	月1回土日を地域指導者が指導し、他の土日を兼職兼業で教職員が指導	15%
C	土日すべてを兼職兼業で教職員が指導	30%
D	他の方法(具体的にお書きください)	5%
○AかCがよいです。大会や練習試合、定期テスト期間中の部活動禁止期間などを外して、月1回の地域連携の日を決めるのは極めて難しいし、地域指導者の予定もあるのでさらに厳しいです。しかし、すべての土日を地域指導者にお願いした場合、他校との練習試合をどう組んでいくのか、大会をどう運営していくのかの道筋がみえません。地域移行は簡単ではないと肌で感じました。 ○CとBの折衷案で報酬を調整した上で教員の参加や外部の機関へ委託して協力して行う方法。		

大治町 部活動地域連携アンケート (保護者 448人)	
1 土日にお子さんを地域スポーツ・文化活動に参加させる場合、望むことは何ですか。(複数回答)	
(1) 仲間をつくったり、楽しんだりすることができる活動	77.5%
(2) 趣味や興味を広げられるような活動	64.8%
(3) 心と体の健康、根気、体力の向上	64.8%
(4) 本格的な技能上達に向けた活動	35.0%
(5) 大会やコンクール等への参加	25.5%
(6) その他：成果が出せる場があること、部活動の延長として地域クラブ活動があること、差別されないこと、保護者の同行を求めないこと、相談できる大人を増やすこと 等	3.2%
2 地域クラブ活動を指導したり見守ったりすることや指導者を紹介することはできますか。	
(1) 指導・見守りは厳しい。	96.1%
(2) 指導はできないが見守りなら参加できる。	3.0%
(3) 条件(報酬、時間、本務との調整等)が合えば指導できる。	2.0%
(4) 指導できる方を紹介できる。	0.7%
3 地域でのスポーツ・文化活動を行う費用について共用できる月額はいくらですか？	
(1) 3,000円	32.7%
(2) 2,000円	25.7%
(3) 1,000円	19.8%
(4) 5,000円	10.7%
(5) 費用がかかるなら参加しない。	9.8%
(6) その他：500円、1,000円以内、内容次第、必要な分	3.4%

今後の課題と対応方針

- 教職員は地域連携を望む声が多かったが、練習内容の情報共有、練習試合等による急な日程変更、指導者との連携にとられる時間等、不安も多く聞かれた。連絡アプリを取り入れることで不安解消につなげる。
- 保護者、生徒へのアンケートから活動目的に幅があることがわかった。

- ニーズに合わせた活動が選択できるように地域で行われている活動一覧を作成し選択しやすいようにする。
- 受益者負担については、いろいろな立場の方からも意見を聞き、検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○今後、保護者等に負担が見込まれる受益者負担を低廉な額とすることや、生徒の安全を確保するため、学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施するよう調整を行なった。

○大治中学校を訪問し、事業への協力及び施設の利用について調整を行った。

取組の成果

○大治中学校を訪問し、地域クラブ活動への理解を高めることで、総合型地域スポーツクラブと学校のつながりを深め、全35回の活動すべてにおいて、学校部活動が普段使用している学校体育施設や町の施設を利用して活動することができた。

部活動名	野球部		陸上部		男女バレー部		男女バスケ部	
場所	町営野球場		大治中運動場		大治中体育館		大治中体育館	
時間	8:30集合 9:00～12:00		8:30集合 9:00～12:00		前半 14:00～15:30 後半 15:30～17:00		8:30集合 9:00～12:00	
実施回数	5～2月	10回	5～2月	6回	5～2月	10回	5～2月	9回

実証事業クラブ 活動場所・時間・回数

今後の課題と対応方針

○屋外部活動は、雨天時に校舎内でミーティング等を行っているが、現在、地域クラブ活動は、天候が悪い場合、中止か日程変更で対応している。今後は、文化部の活動もあるので、学校教育課担当者と校舎内のセキュリティ対策を行い、校舎内の活用を検討していく。

○今後、地域のスポーツ団体やスポーツ少年団の施設利用の依頼もあるため、学校体育施設の利用調整に係る業務を総合型地域スポーツクラブで行う方向で進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 小学生と保護者の意識改革

取組事項

○中学校の部活動は教員が顧問となり進めていたため、中学生は部活動を身近に感じて入部していたが、地域クラブ活動へ移行すると学校外の活動となり、入会者が減少すると考えられる。そこで、地域クラブ活動に近いスポーツ体験の場として、小学生の時期から発達段階に合わせたスポーツ活動を無理なく楽しみながら行うことができるプログラム（スポーツチャレンジ）を構築した。

取組の成果

○小学生授業後スポーツチャレンジ
・コーディネーショントレーニングとドッジボールを中心に行った。参加した児童や保護者からボールを使って遊ぶ場がないので今後も続けてほしいとの声が多数上がった。

対象	申込日	曜日	時間帯	会場	月 / 日											
					5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
大治小低学年	19	第2火	16:00～17:30	大治小体育館	14日	11日	9日	4日	10日	8日	19日	10日	21日	18日		
大治小高学年	17	第4火	16:00～17:30	大治小体育館	28日	25日	2日	4日	3日	22日	26日	17日	28日	4日		
南小低学年	20	第3木	16:00～17:30	南小体育館	9日	27日	4日	4日	19日	24日	21日	19日	16日	27日		
南小高学年	8	第3月	16:00～17:30	南小体育館	20日	17日	1日	4日	30日	21日	18日	16日	20日	3日		
西小低学年	20	第1火	16:00～17:30	西小体育館	21日	4日	2日	4日	10日	1日	19日	3日	28日	4日		
西小高学年	20	第2月	16:00～17:30	西小体育館	13日	10日	8日	4日	9日	7日	11日	2日	27日	18日		

○夏休みスポーツチャレンジ

【申込者総数99人】										【3年:30人 4年:20人 5年:27人 6年:22人】																													
【大治小 20人					3年:5人 4年:11人					5年:3人 6年:1人】																													
【南 小 34人					3年:12人 4年:5人					5年:8人 6年:9人】																													
【西 小 45人					3年:13人 4年:4人					5年:16人 6年:12人】																													
【ボランティア数 50人】																				【大治中:47人 1年:13人 2年:12人 3年:22人】										【一 般:3人】									
日 時		種 目																		参加者数																			
																				児童		ボラ																	
7/30(火) 13:00～16:00		バドミントン・卓球・フットサル・野球																		99人		37人																	
8/20(火) 13:00～16:00		バドミントン・卓球・ハンドボール・バスケットボール																		83人		17人																	
8/27(火) 13:00～16:00		バドミントン・フットサル・ソフトバレーボール・ドッジボール																		87人		24人																	
8/6(火) 13:00～16:00		授業後スポチャレドッジボール大会（+卓球・バドミントン）																		87人		22人																	

備考欄

・昨年度の反省から、充実してできる80人を定員としたが、申し込み初日に80人を超えたので100人まで受けつけた。
・毎回、4グループに分かれて、30分ずつローテーションで4種目を体験、最後は30分フリータイムとした。
・体験種目は、バドミントン(3回)卓球(2回)フットサル(2回)ハンドボール(1回)野球(1回)バスケットボール(1回)ソフトバレーボール(1回)ドッジボール(1回)の計8種目
・昨年度は、水分がなくなったという児童が多数出た。今年度は「200円程度持ってきて自販機の利用をしてもよい」と伝えてあったので、水分の問題はなかった。
・3日間だけであったがどの種目もうまくいった。



・3～6年生を対象に、3時間を3回、スポーツセンターで8種目のスポーツ体験を行った。申し込み初日で100人の定員を上回り、参加した児童からは「やったことがないスポーツばかりだったけど楽しかった」という声が聞かれた。

今後の課題と対応方針

○中学生の地域クラブ活動と連携した取り組みになるよう、中学生はボランティアとして参加し、地域クラブ指導者も参加して地域クラブ活動が身近に感じられるようにしていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保 / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（イ）

- ・町で開催しているスポーツ教室や小学生のスポーツ体験で、参加者やその保護者から好評を得ている指導者に指導を依頼
- ・上記の指導者から紹介された方に短期の教室を依頼し、実績を見て指導者として依頼
- ・保護者アンケートを実施し、指導者や運営補助員を募集

取組の成果（イ）

- ・令和7年度については、顧問も納得した指導者を確保することができた。

番	部活動名	R7	連携先(候補)
1	野球	○	実業団
2	陸上	○	実業団
3	バスケットボール(男)	○	実業団
4	バスケットボール(女)	○	実業団
5	バレーボール(男)	○	実業団
6	バレーボール(女)	○	実業団
7	ハンドボール(男)	○	大治町ハンドボール教室 講師
8	ハンドボール(女)	○	大学女子ハンドボール部
9	卓球(男)	○	大治町ジュニア卓球クラブ
10	卓球(女)	○	大治町ジュニア卓球クラブ
11	サッカー	○	町小学生スポーツ教室 講師
12	吹奏楽	○	町ジュニアバンド元指導者
13	ソフトテニス(男)	○	保護者
14	ソフトテニス(女)	○	保護者
15	ソフトボール	○	保護者

取組事項（ウ）

- ・スポーツ協会理事会にてチラシを配布し、部活動地域連携の理解と指導できる団体、指導者を依頼



取組の成果（ウ）

- ・スポーツ協会に所属する団体より地域連携で中学生の指導の受け入れができるとの連絡が複数あった。

今後の課題と対応方針

- ・現在は、指導経験が豊富な方がほとんどで、参加した生徒や教室で指導を受けている児童・保護者からも信頼が厚い。今後、一般の指導者も

受け入れていく予定であるので、プロの指導者と一緒に指導したり、指導研修をしていただく機会を設けたりして、質の確保に努める。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○令和6年度は6部活動で実証事業として地域連携を行った。スポーツ教室を指導している実業団に指導を依頼でき、生徒、保護者、顧問、学校管理職からも大変好評であった。

○運営主体を総合型地域スポーツクラブで行ったので、現在の規約で当てはまらないこともあったが、令和6年度は県の事業として実施できたため、大きな問題はなかった。

○現在、中学生はほぼ部活動に入部しており、地域クラブ活動も参加費無料で多くの生徒が参加していた。実業団による指導を受けられることもあり、参加者や保護者からも好評だった。

○大治町は1つの中学校しかないため、学校としっかり連携して実施することができ、大きな混乱はなかった。

○おもにコーディネーターと行政担当者と3人で連絡調整を行ってきたが、令和7年度から実施する部活動も増えるため、システムの導入などの整備が必要である。

○指導者の質を確保するためにも良い指導者がいるうちに、後継者を育てていく必要がある。

●成果の評価

○参加生徒、指導者、顧問の聞き取り面談より、9割を超える「よかった」の声があった。これは、指導者の質が高かったこと、しっかり意見を聞いて対策し安心できたことが要因としてあげられる。今後も指導者の質の確保、関係者との打ち合わせ、聞き取りを大切にしていくことが重要である。

○令和6年度は、加入率が部活動参加者の8割を超えていた。学校の管理職や教職員の協力が大きかった。今後も学校との連携を密にして、情報共有ができる関係を築いていく。

●今後に向けて

○地域クラブ活動の欠席連絡が部活動と混乱してうまく確認できなかったことがあった。また、今後は会費の徴収、管理も必要となるので、連絡アプリやシステム導入で会員、会費の管理や連絡の漏れをなくしていくことが必要である。

○信頼おける指導者を確保するためには、財源の確保が必要である。受益者負担は行っても、運営主体であるスポーツプラスおおはるが自立していくためには、地元企業の協力もお願いしていく必要がある。企業にとっても地域クラブ参加者にとってもWin-Winの関係になる方法を検討していく。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●参加者の声

中学3年生

指導がわかりやすく、できなかったことができるようになった。

中学3年生

引退でできなくなるのが残念。もっと参加したかった。

中学2年生

試合でうまくいかなかったところを教えてもらうことができてすごくうれしかった。

中学2年生

部活の先生と言っていることが違うので、迷わずに安心して練習に参加できた。

中学1年生

先生がたくさんいるので、1年生もしっかり教えてもらうことができてうれしい。すごく楽しい。

中学1年生

人数が多く、場所が狭いので、もう少し長い時間やれるといい。来年もぜひ続けたい。

指導者

施設、道具を気持ちよく使わせていただき、報酬も配慮していただくなど、運営団体の配慮にとっても感謝している。

指導者

月1回なので、スキルアップに徹して行っているが、できればチーム練習も教えてあげられるよう顧問と連携していきたい。

部活動顧問

生徒がとても楽しいと言っている。今までできなかったことが知らない間にできるようになってきている。プロに指導していただけてとてもありがたい。

部活動顧問

自分もときどき見学させていただいているが、とても勉強になる。練習内容の情報共有ができるとさらに効果があがる。

保護者

部活動は技術指導だけでなく、いろいろな面で指導し支援していただけるのでありがたい。地域指導者でもこのような指導をしていただけるならとても安心できる。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【体幹トレーニング】



【技術指導の様子】



【指導の様子】



【小学生スポーツ体験の実施】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、地域スポーツ団体、スポーツ協会、町長部局、町教委、総合型地域スポーツクラブマネージャー、コーディネーター

経過

令和5年度より検討委員会を設置し、総合型地域スポーツクラブ「スポーツプラスおおはる」が運営主体として活動できるよう、令和8年度までに構築する推進計画を策定した。同時に、スポーツ教室の指導者に声をかけ指導者確保を行った。運営団体とコーディネーター、学校関係者、指導者、行政等で意見交換会を実施し、学校と地域クラブ活動のよりよい連携のための課題や対策を協議していった。参加生徒や部活動顧問が不安を抱かないよう、定期的に面談したり、アンケートを実施したりした。

実施内容

令和6年5月から、6部活動において月1回の休日の部活動を地域クラブ活動へ移行する試験的な取組を開始した。令和7年度に向け、他の種目の指導者候補による短期のスポーツ教室を行った。

実施にあたって生じた課題

日程変更・調整や活動内容の地域指導者と部活動顧問の情報共有、鍵の貸出や出欠確認や緊急時の連絡を誰が行うか等の課題があがった。途中から連絡アプリを導入したが、徹底できずコーディネーターと行政担当者が一つずつ対応した。今後は、会費徴収もあるためシステムの導入と運営補助員の雇用を運営主体であるスポーツプラスおおはると検討していく。

現在、実業団・プロ指導者を依頼しており、生徒、保護者、顧問から大変好評であるが、今後、受益者負担になった場合、報酬額と参加費が見合わなくなることが予想される。一般の指導者確保と企業協賛を検討していく。

今後の展開

令和8年度からは、休日の地域クラブ活動を毎週実施する予定で進めている。また、持続可能な地域クラブ運営とするために、受益者の会費負担と地元企業の協賛を得るため、スポンサー名入りTシャツの作成を検討する。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

【 大治町の目指す姿 】

大治町部活動地域連携について 【目指す姿】

R7.2.27

① 地域展開のメリット…生徒も先生もニーズに合わせて選択できる

A 大会で上位入賞 B 大会参加 C 楽しくo r 様々な活動 D フリー

② R8は土日すべてを地域クラブへ移行し、指導を希望する教員は兼職兼業で行うことができる

③ 保護者費用は目的に合わせて A クラブチームの規程 B 2,000円/月+1,500円/年 C 地域団体の規程

【 ロードマップ 】

	R 5	R 6	R 7	R 8
取 組 み 内 容	・国ガイドラインの周知 ・意見交換会の開催(2 回) ・大治町地域連携方針を検討 ・チラシ「大治町部活動地域連携について」を保護者と教職員へ配布 ・教職員アンケートを実施 ・小学生ｽﾎｰﾂﾁｬﾚﾝｼﾞを開催	・教職員へ連携方法を説明 ・実証事業に 6 部活動が参加 ・意見交換会の開催(3 回予定) ・小 5、6 年生へ大治町部活動地域連携について説明 ・児童・生徒、保護者、教職員にアンケートを実施 ・地域団体へ説明 ・教職員の兼職兼業を検討 ・保護者の費用負担を検討	・実証事業の拡大 ・意見交換会の開催 ・R 8 の地域クラブ活動のあり方を検討 ・保護者負担の環境整備 ・児童・生徒、保護者、教職員、関係者に今後の地域連携について説明 ・指導者研修ガイドライン作成 ・指導者研修の環境整備	・土日の部活動を地域クラブ活動へ移行

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

愛知県 阿久比町

自治体名：愛知県阿久比町

担当課名：教育委員会社会教育課

電話番号：0569-48-7311

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	23.94 km ²
人口	28,060 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	1,070 人
部活動数	18 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	未設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

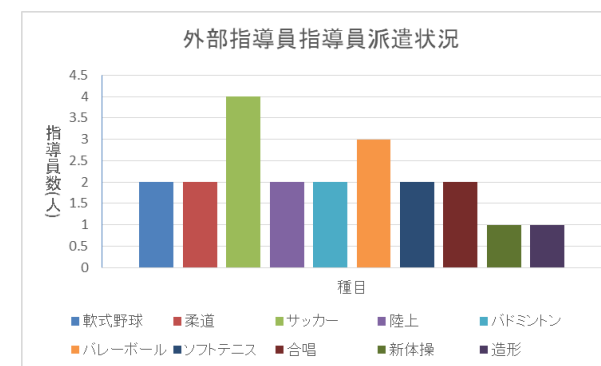
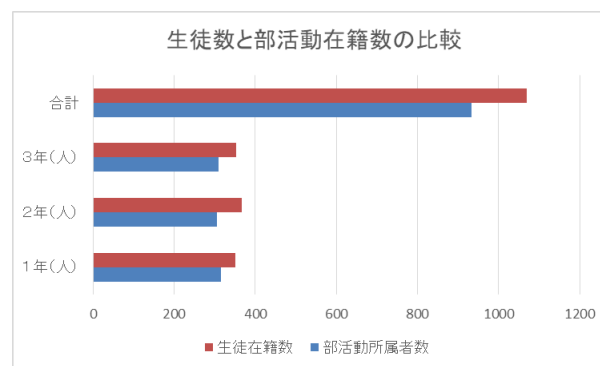
中学校では令和4年より部活動の自由参加を導入しており、在籍する生徒のうち9割弱が部活動を行っている。内訳は在籍者は932人で1年生316人、2年生306人、3年生310人である。

（令和6年5月9日現在）また、部活数は運動部で12、文化部で6となっており、中には男女が別になっている部活もある。

現在教職員以外の部活動指導を行っている部活動指導員は21名在籍しており、軟式野球、柔道、サッカー、ソフトテニス、陸上、バレーボール、バドミントン、合唱、新体操、造形の種目を行っている。現在は、教職員の精力的な活動によって支えられ

ているが、教職員の在校時間の増加、指導者としての経験の浅さなどが問題となっており、また参加する生徒の意識の変化などにより以前のような部活動の形を保てなくなりつつある。

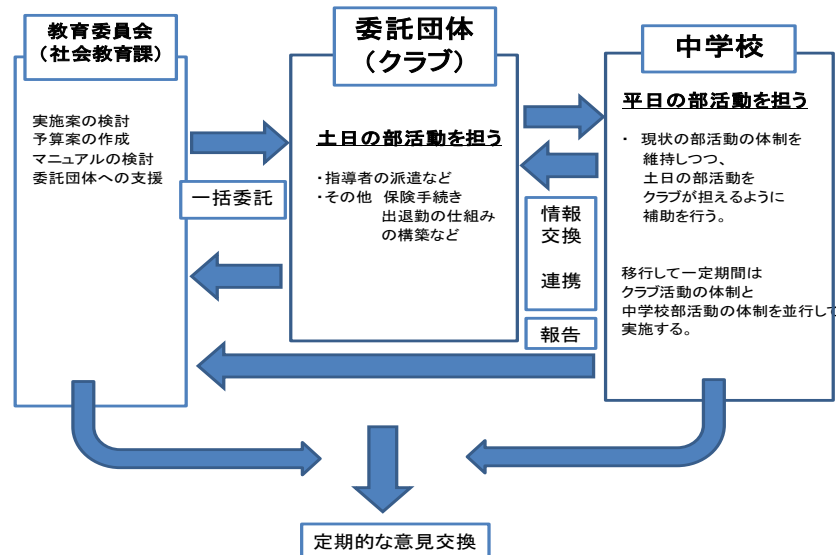
課題としては、学校の代わりに部活動を実施する受け皿及び指導者の確保、平日と休日の指導者の変更に伴う指導内容の違いへの対応などが想定された。令和5年11月から開始した、バドミントン部における地域移行が一定の期間が経ち新たな課題や方向性といったようなことが見え始めてきたため、今年度は既存の方向性を進めつつも、新しい方針の策定のための行動を実施した。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・計画の立案及び運営を担う。

（検討委員会の開催、委託業者への指示、定期的な報告の取りまとめ、マニュアルの検討など）

年間の事業スケジュール

令和6年4月	試行実施開始（バドミントン） 毎月 指導を実施
令和6年7月	教育委員会、中学校、 委託業者 三者会議
令和6年11月	教育委員会、中学校、 委託業者 三者会議
令和6年12月	教育委員会、中学校、 委託業者 三者会議

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	1 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
バドミントンクラブ	有限会社プレージャー企画	バドミントン	月3回程度	日中	30人程度	今年度中	阿久比中学校	1 人	2 人	0円	地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 各種大会等

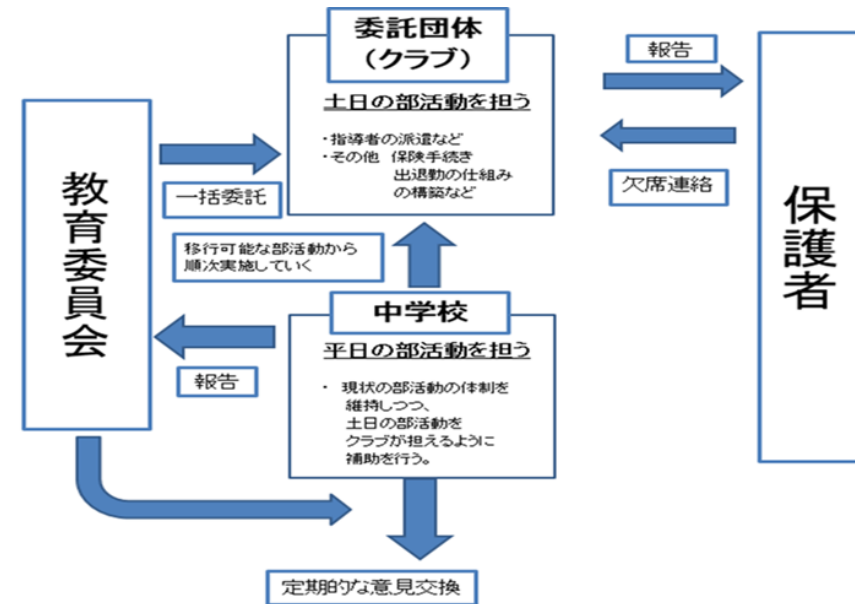
2.実証内容と成果

主な取組例

●活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン
運営団体名	有限会社プレジャー企画
期間と日数	バドミントン：月3回程度
指導者の主な属性	中学校外部指導員
活動場所	阿久比中学校
主な移動手段	自転車及び徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●委託団体

役割：指導員の出退勤管理などの調整を行う。

●指導員 1名

役割：クラブ活動の指導を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

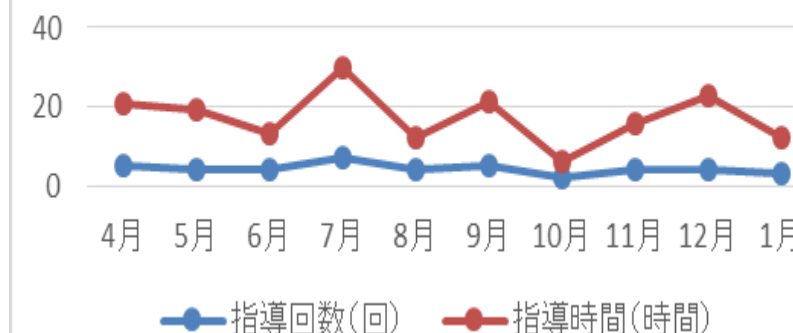
阿久比町を実施主体とし、指導者などを人材バンクを運営する法人に所属させるなどの方法により実施する。

取組の成果

法人に事業を委託することで学校や教育委員会の橋渡しを円滑に行えるような体制づくりを行うことを目的に実施した。

暫定的に既存の指導員をクラブに所属させ部活顧問も部活動に参加する体制をとることで生徒への影響を最小限にすることができた。また、この体制の間に移行の本格化に向け部活動において実施している細かな伝達事項などを委託業者とともに確認することができている。

指導時間及び回数



今後の課題と対応方針

- ・他の部活動においても同様の手法での実施を予定していたが、指導員からの理解を得られず実施することが出来なかったため、今後同様の方式を継続するか、他の方式を用いるかを検討する必要がある。
- ・今年度の事業実施の結果として、次年度以降は、自主クラブを基盤とし取りまとめの事務を行う（仮称「部活動連盟」）、団体や指導員の募集、各団体に支援（指導者謝金の支払い）などの取りまとめの事務を行う『上部団体』を設定する組織構造を形成を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項（イ）

指導経験のあるクラブチームの指導者に指導を依頼することで、指導者の質を保証する。

取組の成果（イ）

実施の際の課題として、平日と休日の指導者が変わることによる、参加生徒への混乱が想定されていた。そこですでに部活動の指導に携わっている外部の指導者を核としてクラブチームを運営することで、実際の部活動との指導のずれを最小限にしようと試みた。

実施した中学校バドミントン部においては顧問教諭が専門的な指導の知識を持っておらず、当該指導員が中学校の外部の指導員として在籍していた。指導の内容を変更することなく、移行することができ指導者にも、生徒にも負担をかけずに実施することができた。

今後の課題と対応方針

現在は、指導実績はある指導員を用いて運営しているが、指導員が在籍していない部活動においては実施できないため、今後、複数の部活動に対象を拡大していく場合、指導員の確保などの課題が表出することが予想される。既存の方式から得られた情報をもとに新たな対応策を打っていく必要があると思われる。

バドミントン部における地域移行が一定の期間が経過し、ある程度の実

績が見えてきたため、状況を整理し、方針を確認するため、複数回の三者会議（教育委員会、学校、委託業者）を行った。

今年度までの活動の結果として、指導員がなかなか増えなかったため、次年度以降は、指導者の対象として教員を視野に入れ、無償ボランティア等の様々な待遇を考えることでクラブに所属する教員の数の増加を狙うことにする。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は、運営方法の再検討と実施活動数の増加を目標に実施してきた。また、昨年度同様、法人に事業を委託することで、学校や教育委員会の橋渡しを円滑に行えるような体制づくりを構築することを目的に実施した。地域の実情に合った地域クラブの運営方法や計画の立案に向けて、拠点中学校や教育委員会、民間事業者と定期的な検討を重ねた。

次年度以降は、自主クラブを基盤とし取りまとめの事務を行う団体や指導員の募集、各団体に支援などの取りまとめの事務を行う『上部団体』を設定する組織構造の形成を図る。今年度までの活動の結果として、指導員がなかなか増えなかったため、今後は、指導員の対象を教員にも広げることを視野に入れ、無償ボランティア等の様々な待遇を考えることで、クラブに所属する教員の数の増加を狙う。

●成果の評価

実施活動数は1つの団体にとどまったが、指導者や参加生徒や保護者、部活動顧問からの問題点の指摘はなく、スムーズに移行し、活動ができている。この実施クラブの運営方法をモデルに、実施活動数の増加を図っていく。

法人に事業を委託することで、指導員の勤怠管理や報酬支払い等を円滑に行うことができた。

●今後に向けて

○地域の実情に即した運営方法の検討。

○総合型地域スポーツクラブ、各種協会、各競技団体などの多様な団体に、地域クラブ活動の運営に参画してもらえるよう打診していくとともに、事業スキームの明確化を図る。

2.実証内容と成果

参考資料（活動写真）



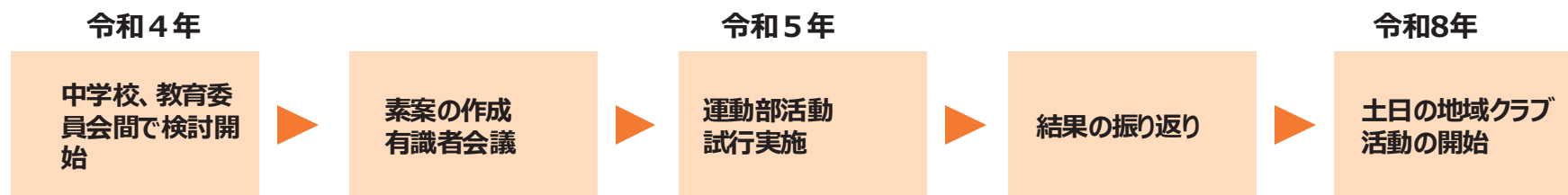
【指導風景①】



【指導風景②】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



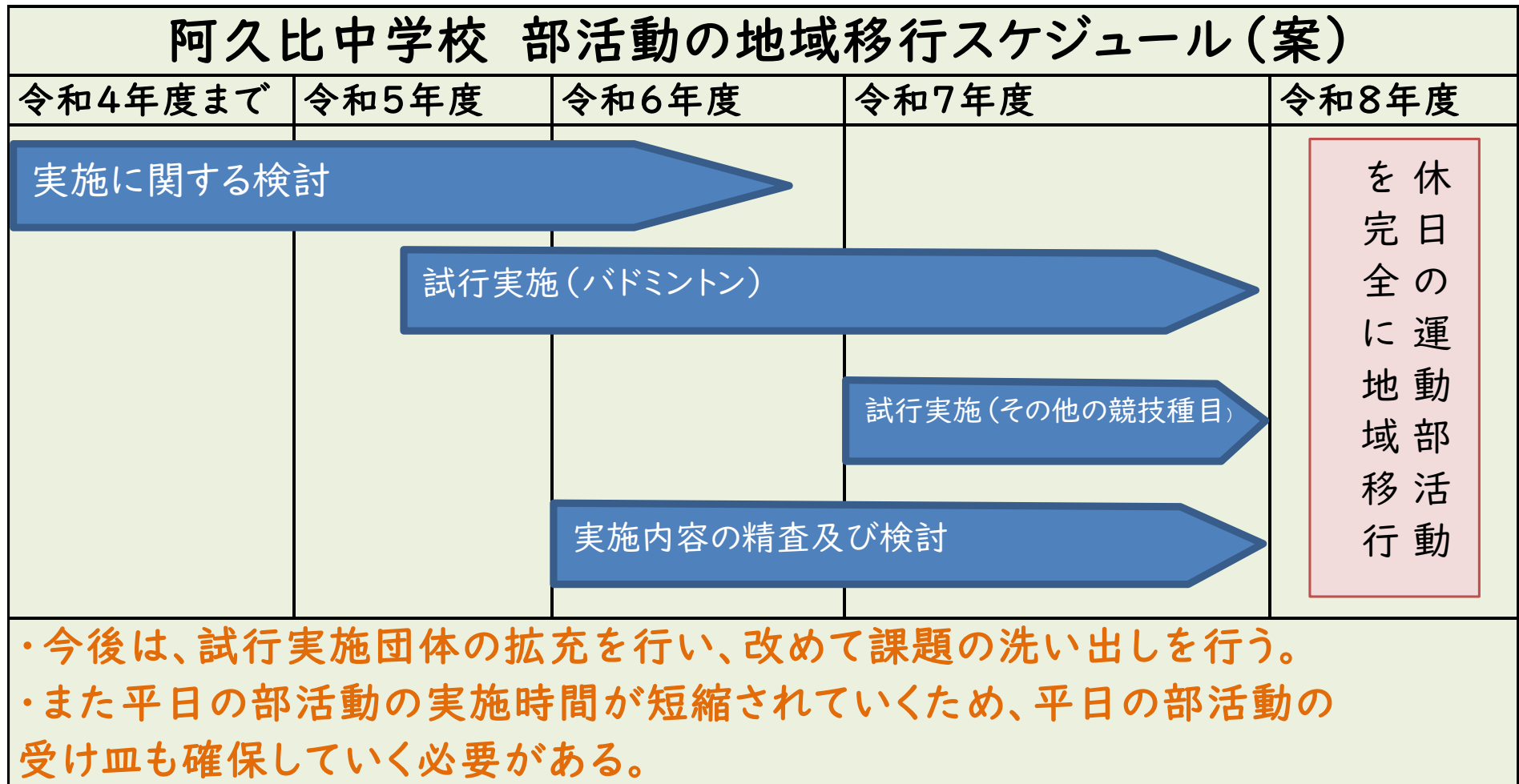
- 検討開始
- 【ステークホルダー】
教育委員会及び中学校
- 【経過】令和4年4月～
教育委員会が主体となり、学校と実施方式について検討を重ねる。
- 【課題】
指導員、参加費、実施場所など
- 【実施内容等】
状況の確認と問題点の洗い出しを行った。その中で学校、町が介在しない形での団体委託が望ましいという結論に至り、本事業を担える団体の選定を開始した。
その後試行実施内容を外部の部活動指導員が指導している部活動において実施することに決まった。

- 運動部活動試行実施
- 【ステークホルダー】
阿久比中学校バドミントン部
- 【経過】令和5年11月から
- 【課題】
所属した指導員は1名であり、普遍的なスキームを作ることが出来なかった。文化部活動において、振り返り結果を反映させる必要がある。
- 【実施内容等】
事業を委託し、外部の指導員のうち事業への協力を得られたバドミントン部にて試行実施を開始し、参加生徒への急激な環境の変化を避けるため、当該部活動の顧問教諭などと一緒に活動を行った。

- 教育委員会、中学校、委託業者三者会議
- 【ステークホルダー】
委託業者
- 【経過】
事業開始後より定期的に実施
- 【実施内容等】
試行実施に伴う問題点や、今後の方針についての検討を実施し、今後より多くの部活動において具体的に話を進めていくにあたり、今後の方針などについて話し合いを行っている。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

愛知県 東浦町

自治体名：愛知県知多郡東浦町

担当課名：こども未来部 教育課

電話番号：0562-83-3111

1.自治体の基本情報

基本情報

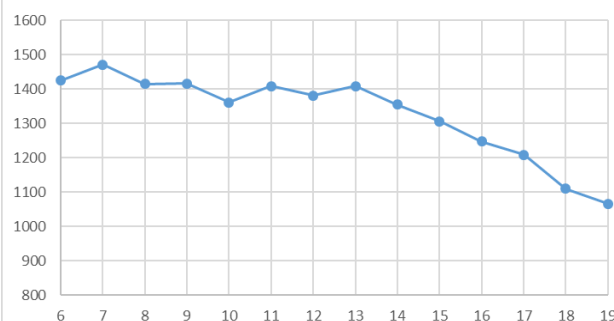
面積	31.12 km ²
人口	50,044 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	1,426 人
部活動数	27 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

東浦町では、少子化の影響により、学区の活動（部活動）だけでは、自分の趣向や可能性を模索できる機会が年々減少していくことが想定されている。その中で、令和5年度9月から町内3中学校長の決定として、休日の部活動を行わない方針が示されたことを受け、本町では中学生が休日にスポーツ等に親しむ機会を捻出するため、町内在住の中学生なら誰でも月額1,000円で入会できる「ひがしうら地域クラブ」を立ち上げた。スポーツクラブとしてはサッカー、バスケットボール、ハンドボール、柔道、剣道、軟式野球、卓球、バレーボールの8クラブがある。現在の地域クラブの方針は、スポーツに親しむことを主

目的としているが、町内3中学校より、令和7年9月以降は夏の大会・コンクール以外に学校部活動として参加しないという方針が示されたため、地域クラブとしても会員のニーズに応えるために、大会等への参加に向けて活動範囲を拡大していくことが課題となっている。また、予算は町一般会計から歳出しており、受益者負担の考えをもっているが、受益者が中学生であることを考えると、全額受益者負担は相応しくないと考え、一部受益者負担にとどめている。指導者の方への報酬、会計年度任用職員への報酬、消耗品費など、直営の「ひがしうら地域クラブ」を継続して運営するための予算確保が課題となっている。

予想町内中学生数

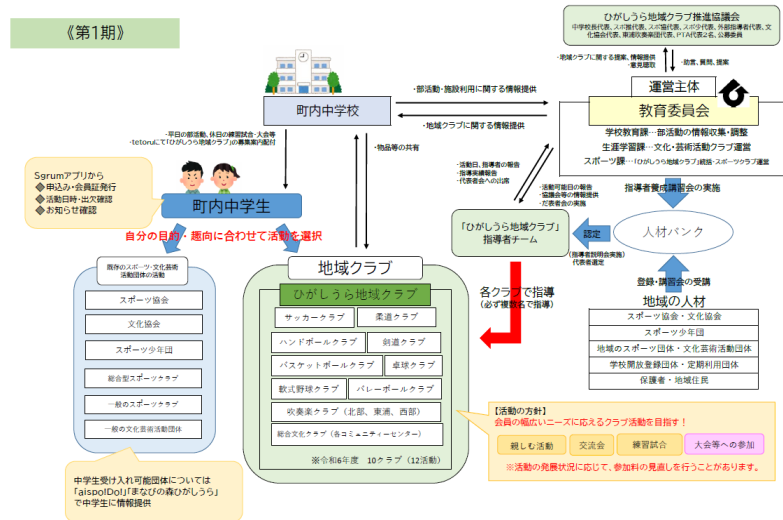


推定町内中学生数
※令和6年12月末
年齢別男女別人口をもとに推定
(転入転出は考慮しない。)

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課…部活動の情報収集・調整
- ・生涯学習課…文化・芸術活動クラブ運営
- ・スポーツ課…地域クラブ主幹、スポーツクラブ運営

◎首長部局

- ・なし

年間の事業スケジュール

4月	地域クラブの運営
5月	地域クラブの運営
6月	地域クラブの運営
7月	地域クラブの運営
8月	地域クラブの運営 指導者養成講習会の開催
9月	地域クラブの運営
10月	地域クラブの運営 代表者会
11月	地域クラブの運営 第1回「ひがしうら地域クラブ」 推進協議会開催
12月	地域クラブの運営
1月	地域クラブの運営 第2回「ひがしうら地域クラブ」 推進協議会開催
2月	地域クラブの運営 指導者養成講習会の開催
3月	地域クラブの運営 代表者会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0 クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導者数	84 人	全体の運営スタッフ数	4 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ひがしうら地域クラブ	直営	サッカー、バスケットボール、ハンドボール、柔道、剣道、軟式野球、卓球、バレーボール	年間各40回程度＋練習試合＋交流会＋大会参加	（基本） 9：00～ 12：00	中3 37人 中2 84人 中1 98人 （年間平均）	通年	東浦中学校 北部中学校	84 人	4 人	月会費 1,000 円	（地域クラブ）部活動として参加しない大会で、指導者、会員の希望があったものの

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- なし

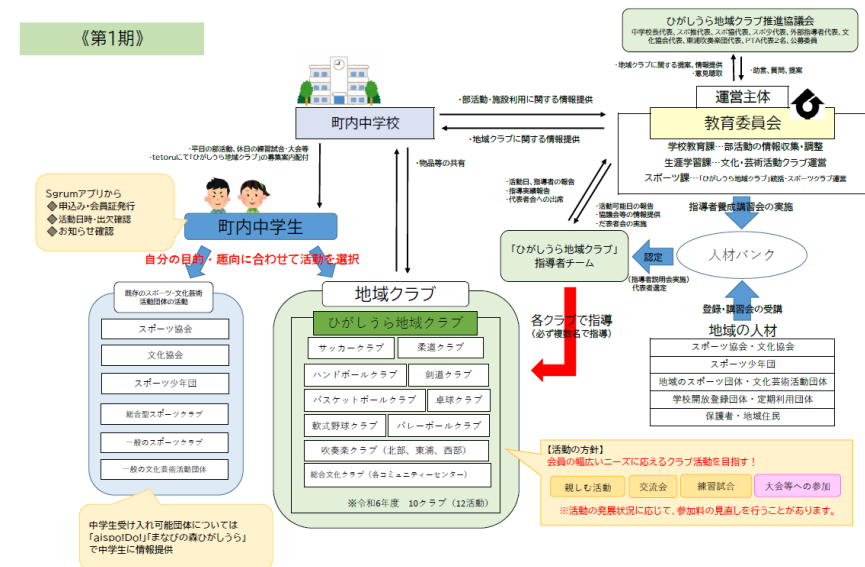
2.実証内容と成果

主な取組例

●ひがしうら地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、バスケットボール、ハンドボール、柔道、剣道、軟式野球、卓球、バレーボール
運営団体名	教育委員会
期間と日数	4月13日～3月31日 年間各40回程度＋練習試合＋交流会＋大会参加
指導者の主な属性	スポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員、部活動外部指導者、地域のスポーツ団体、学校開放団体、公共施設定期利用団体、保護者
活動場所	北部中学校、東浦中学校
主な移動手段	自転車、徒歩、送迎、公共バス
1人あたりの参加会費等（年額）	年額12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 指導者1人あたり：1,850円/年 会員は町が加入するふれあい保険で対応のため、自己負担なし

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●会計年度任用職員 1名

役割：活動の安全管理、指導実績管理、会員の出席管理などを行う。

●指導者（代表者）

役割：各クラブの活動日・指導者の決定、代表者会への参加、会員の安全管理、必要に応じて指導を行う。

●指導者

役割：会員の安全管理、必要に応じて指導を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

令和4年度からスポーツ協会会長、スポーツ少年団本部長、スポーツ推進委員長、部活動外部指導者代表、文化協会会長、東浦吹奏楽団代表、東浦町PTA連絡協議会会長、東浦町PTA連絡協議会副会長、中学校長代表、公募委員、教育委員会（学校教育課、生涯学習課、スポーツ課）から構成される「東浦町の部活動及び新たな地域クラブ活動推進協議会」を立ち上げ、これまで7回の協議会を開催した。今年度も、大会等への参加に向けた活動拡大等を議題として、2回の協議会（11月頃、1月頃）を開催したい。

取組の成果

令和6年11月13日（水）に、前期の活動実績についてや後期以降の練習試合・大会参加等を議題として、令和6年度第1回「ひがしうら地域クラブ」推進協議会を開催し、活動の拡大に伴う条件等の整理を行った。また、令和7年1月31日（金）に、令和7年度以降のひがしうら地域クラブ所管変更や運営方法の変更を議題として、第2回「ひがしうら地域クラブ」推進協議会を開催し、募集案内等への記載内容の変更点などの整理を行った。



「ひがしうら地域クラブ」推進協議会
町ホームページ 二次元コード

【URL】
<https://www.town.aichi-higashiura.lg.jp/soshiki/kyoiku/kyoikukikaku/gyomu/12528.html>

「ひがしうら地域クラブ」推進協議会
町ホームページ URL

今後の課題と対応方針

活動に親しむことを主目的としているため、練習試合や大会参加等の活動拡大については、基本的には通常活動とは別に行っている。そのため、指導者報酬等が増加するため、今後も活動を広げながら公的資金と受益者負担のバランスの検証を行い、令和8年度からの参加料の見直しを検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項	人材バンクの人数	登録者属性	種目	資格有無
指導者に対して、ペップトークなどの指導者養成講習会を実施し、会員に対する接し方、安全管理等の知識・技能を身につけてもらう。	116名	スポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員、部活動外部指導者、地域のスポーツ団体、学校開放団体、定期利用団体、保護者	サッカー：11名 バスケットボール：8名 ハンドボール：17名 柔道：12名 剣道：8名 軟式野球：14名 卓球：12名 バレーボール：9名 その他：25名	指導者は資格不要。 町が主催する指導者養成講習会を受講することで、地域クラブ指導者として認定する。
会計年度任用職員が地域クラブの活動場所を巡視し、不適切な指導がないかなど見回りを行う。	人材バンクの年代別構成 10代 2名 20代 23名 30代 17名 40代 29名 50代 27名 60代以上 18名			

取組の成果

- ・令和6年8月、令和7年2月に指導者養成講習会を実施した。
- ・指導者に対して、ペップトークなどの指導者養成講習会を実施し、会員に対する接し方、安全管理等の知識・技能を身につけてもらった。その結果、保護者、会員から指導者の指導が不適切等の問い合わせは0件であった。
- ・スポーツ課職員と会計年度任用職員が地域クラブの活動場所を巡視して不適切な指導がないかを確認することで、安全で健全な指導環境を確保した。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- ・「東浦町の部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針について」東浦町教育部スポーツ課 統括課長補佐 永井 亮太
講義形式 30分
- ・「育成年代における練習アプローチやペップトークの考え方とその実践」
一般社団法人フィジカルエクスペリエンス協会スポーツアカデミー
代表トレーナー 岡田 康邦 氏
講義形式 90分
- ・「救急法実習」普通救命救急～AED実習と心肺蘇生について～
半田消防署 東浦支署員
実技形式 120分

指導者研修の参加実績

- ・開催日：令和6年8月18日、令和7年2月2日
 - ・開催回数：2回
 - ・参加人数：37人
- ※令和5年度から計6回の指導者養成講習会を実施し、延144名が受講している。

受講者の声

アンケートは実施していないが、東浦町の指導者になるためには、指導者講習会の受講を義務付けている。その結果、保護者・会員から指導者の指導が不適切等の問い合わせは0件である。

今後の課題と対応方針

今後も、練習試合や大会等への参加など、活動の幅をさらに拡大していく予定であるため、指導者の技術的な指導力向上に向けた内容も取り入れていきたいと考えている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

大会等への参加に向けて、町内中学校や大会を主催する団体との連携を強化する。

今後の課題と対応方針

- ・さらに関係団体との連携を強化して、他クラブにおいてもニーズがあれば大会参加等が行えるようにしていく。
- ・大会等への出場に関して、事前の登録や登録料が必要な大会があるが、大会参加ありきの地域クラブとならないようにしているため、登録の可否、登録料の財源について検討を進めていくことが課題である。

取組の成果

- ・町内中学校に送られてくる大会案内等の情報を把握するため、中学校に依頼をして教育委員会に大会案内等のコピーを送ってもらう体制を構築した。その結果、卓球クラブにおいて、2つの大会（東海市民卓球大会、全知多小中卓球大会）へ参加することができた。
- ・町内において大会等を主催しているスポーツ協会に相談して、地域クラブから参加が可能となるように大会要項等を修正してもらい、剣道クラブ、柔道クラブ、卓球クラブにおいて、大会（秋季剣道大会、秋季柔道大会、冬季卓球大会）に参加することができた。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

これまでの地域クラブの活動は、スポーツに親しむことを主目的として各クラブ週1回3時間程度としていたが、大会等への参加など競技力向上に重点をおいた活動も開催し、クラブの発展状況に応じて、週2回（親しむ活動1回、競技力向上に向けた活動1回）の活動も取り入れていく。また、活動場所を町内中学校の施設限定としていたが、他市町に出向いての練習試合や交流会を実施する。

活動の詳細

参加人数	248 人（最大数）	指導者数	84人																																			
属性	ひがしうら地域クラブ																																					
具体的な内容	競技力向上への趣向が強い会員に向けて、町内中学校と大会等の情報共有の仕組みを構築したり、本町のスポーツ協会と連携したりして、令和6年10月から練習試合や交流会、大会参加などの活動を開始した。																																					
子供（保護者）の声	● 対外試合を増やしてほしい。 ● 学校の部活動で試合に出れるなら必要はないが、基礎力向上を目指した練習試合はしてほしい。 ● 部活動の練習時間が足りていない。																																					
関係者の声	● 部活動の補填として入会している会員も40%ほどいるため、練習試合など成果を確認できる機会があるとよい。【協議会委員】 ● 親しむ活動の重要性は理解しているが、現状はどこかで目標となるようなものがあると、会員のモチベーションも高くなり、指導がしやすい。【指導者】																																					
運営経費	令和6年度の9月補正予算にて、指導者謝礼を216,000円増額して、取り組んだ。	入会した目的【2024/9/27～10/6アンケート調査】 <table><thead><tr><th>番号</th><th>回答</th><th>主アカウント</th><th>副アカウント</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>スポーツ・文化芸術活動を楽しむため</td><td>20</td><td>0</td><td>20</td></tr><tr><td>2</td><td>体力・健康の保持増進</td><td>18</td><td>1</td><td>19</td></tr><tr><td>3</td><td>新しいスポーツ・文化芸術活動にチャレンジするため</td><td>6</td><td>0</td><td>6</td></tr><tr><td>4</td><td>過去に取り組んでいたスポーツ・文化芸術活動に再チャレンジするため</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>5</td><td>普段取り組んでいるスポーツ・文化芸術活動（部活動等）の補填をするため</td><td>30</td><td>2</td><td>32</td></tr><tr><td>6</td><td>その他の回答</td><td>3</td><td>0</td><td>3</td></tr></tbody></table> ● スポーツ・文化芸術活動を楽しむため ● 体力・健康の保持増進 ● 新しいスポーツ・文化芸術活動にチャレンジするため ● 過去に取り組んでいたスポーツ・文化芸術活動に再チャレンジするため ● 普段取り組んでいるスポーツ・文化芸術活動（部活動等）の補填をするため ● その他の回答		番号	回答	主アカウント	副アカウント	合計	1	スポーツ・文化芸術活動を楽しむため	20	0	20	2	体力・健康の保持増進	18	1	19	3	新しいスポーツ・文化芸術活動にチャレンジするため	6	0	6	4	過去に取り組んでいたスポーツ・文化芸術活動に再チャレンジするため	1	0	1	5	普段取り組んでいるスポーツ・文化芸術活動（部活動等）の補填をするため	30	2	32	6	その他の回答	3	0	3
番号	回答	主アカウント	副アカウント	合計																																		
1	スポーツ・文化芸術活動を楽しむため	20	0	20																																		
2	体力・健康の保持増進	18	1	19																																		
3	新しいスポーツ・文化芸術活動にチャレンジするため	6	0	6																																		
4	過去に取り組んでいたスポーツ・文化芸術活動に再チャレンジするため	1	0	1																																		
5	普段取り組んでいるスポーツ・文化芸術活動（部活動等）の補填をするため	30	2	32																																		
6	その他の回答	3	0	3																																		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

令和6年10月から練習試合や交流会、大会参加などの活動を開始し、バスケットボール、サッカー、ハンドボール、バレーボール、剣道、卓球クラブで、他地区の中学生などの練習試合や交流会を計20回実施することができた。また、これまで活動場所は町内中学校の施設のみとしていたが、バスケットボールクラブ、卓球クラブにおいて、町外に出向いての練習試合も2回実施した。なお、サッカークラブでは、本町がホームパートナーシップ協定を結んでいる「FC刈谷」からU15担当コーチを招いての練習会も定期的に開催している。柔道、剣道、卓球では計5回の大会への参加を行った。



(バスケットボールクラブ) 他地区の中学生との練習試合



(バレーボールクラブ) 他地区の小学生との交流会



(サッカークラブ) FC刈谷のコーチを招いた練習会



(ハンドボールクラブ) 地域のクラブチームとの合同練習会



(卓球クラブ) 他地区の中学生との練習試合



(剣道クラブ) 町内の小学生・成人との合同練習会

今後の課題と対応方針

競技力向上に重点をおいた活動を行う際には、必ず会員に希望を確認して強制することがないように配慮してきたが、全員が希望することはなかった。競技力志向ではない会員のために、今後も通常活動は確保したうえで競技力向上に重点をおいた活動を行っていくことが、幅広くニーズに応えるクラブとするために必要なことだと考える。また、マルチスポーツの機会として活用

していた会員が約40名程度いたが、各クラブで練習試合や大会参加等を拡充してからは、一つのクラブに集中して参加する会員が増加した。マルチスポーツという新しい価値観を広めていくことも本クラブの目的であるため、これらの活動のバランスと会員の動向を分析していくことが今後の課題である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

活動の拡大を見据えて、会員の安全管理や諸問題への早期対応を可能とするために、地域クラブ運営専属の会計任用職員を任用する。

取組の成果

スポーツクラブを所管するスポーツ課に、地域クラブ運営専属の会計任用職員を1名任用した。その結果、練習試合中に会員が負傷する事態が1件発生したが、会計任用職員がその場に立ち合っていたことで、応急手当や保護者連絡など迅速な対応ができた。

また、町外に出て練習試合や交流会、大会等に参加するクラブが増えたことで、正規職員も町外に付き添ってフォローすることが多くなった。その分、地域クラブ運営専属の会計任用職員が通常活動を行っているクラブの安全確認を行うことで、常に緊急事態に対応できるクラブ運営体制が確立できた。

安全管理や諸問題への早期対応の工夫

- ・地域クラブの活動の際には必ず会計任用職員が勤務し、見まわりが可能な体制を整えた。
- ・正規職員と会計任用職員が分担して活動場所を見まわることで、複数の活動場所でも常に指導者が職員に相談・報告ができる体制を整えた。

今後の課題と対応方針

- ・現在は、スポーツ課正規職員が統括コーディネーターの職務を兼任しているが、他イベントなどで見まわりが難しい場合もあるため、統括コーディネーターなどの人材発掘が課題である。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- ・「ひがしうら地域クラブ」推進協議会を2回開催し、活動の拡大に伴う条件等の整理や令和7年度以降のひがしうら地域クラブの運営方法の変更などの整理を行った。
- ・ペップトークなどの指導者養成講習会を実施し、会員に対する接し方、安全管理等の知識・技能を身につけてもらった。その結果、保護者、会員から指導者の指導が不適切等の問い合わせは0件であった。
- ・スポーツ課職員と会計年度任用職員が地域クラブの活動場所を巡視して不適切な指導がないかを確認したり、負傷等が発生した場合に対応したりすることで、安全で健全な指導環境を確保した。
- ・町内中学校や本町のスポーツ協会と連携して、計5回の大会への参加を行った。また、練習試合や交流会を計20回実施することができた。

●成果の評価

- ・「ひがしうら地域クラブ」推進協議会の開催、指導者養成講習会の開催などについては、申請時の計画通りに実施することができた。統括コーディネーターの設置はできていないが、地域クラブ運営専属の会計任用職員を任用したことにより、安全で健全な指導環境の確保につながり、保護者、会員からの指導や運営が不適切等の問い合わせは0件であったことから、安定した地域クラブ運営を継続して行うことができたと考える。
- ・練習試合や大会等への参加に関しては、申請時に令和6年度中に15回の開催を目標としていたが、目標を上回る25回（練習試合等20回、大会参加5回）の開催を実現することができた。しかし、クラブによって拡大状況に差があったり、軟式野球クラブのように競技力向上を重視した活動が行えていないクラブもあるため、今後も会員のニーズや指導者の意向を把握しながら、活動を拡大していく必要がある。

●今後に向けて

これまでスポーツクラブをスポーツ課が運営し、文化芸術クラブを生涯学習課が運営してきたが、令和7年度からは教育課が一括管理を行うことで、中学校などの関係団体との連携の強化を図ったり、それぞれの課で任用している会計任用職員（2名）がより連携して勤務したりすることで、会員にとっても指導者にとってもさらに安全で健全な指導環境を構築していきたい。

アンケート結果・広報資料

●アンケート結果

「ひがしうら地域クラブ」の運営を開始してから、これまでに会員に対して3回、指導者に対して2回のアンケート調査を実施している。その結果を「ひがしうら地域クラブ」推進協議会の資料として、意見運営や運営方針の決定に生かしている。

- 令和5年度第3回東浦町部活動の地域移行推進協議会 → 第1回会員・指導者アンケート調査結果
- 令和5年度第4回東浦町部活動の地域移行推進協議会 → 第2回会員・指導者アンケート調査結果
- 令和6年度第1回「ひがしうら地域クラブ」推進協議会 → 第3回会員アンケート調査結果



「ひがしうら地域クラブ」推進協議会
町ホームページ 二次元コード

【URL】

<https://www.town.aichi-higashiura.lg.jp/soshiki/kyoiku/kyoikukikaku/gyomu/12528.html>

「ひがしうら地域クラブ」推進協議会 町ホームページ URL

●町内中学校の入学説明会でのプレゼン資料、募集案内

令和5年度から、1～2月に町内中学校で行われる入学説明会にて、スポーツ課職員が「ひがしうら地域クラブ」の説明を行っている。また、募集案内は3月に小学6年生と中学1～2年生の全児童生徒に、配信アプリの「tetoru」を活用して周知している。そして、これらの資料は本町ホームページに掲載して、いつでも確認できるようにしている。



「ひがしうら地域クラブ」
町ホームページ 二次元コード

【URL】

<https://www.town.aichi-higashiura.lg.jp/soshiki/kyoiku/kyoikukikaku/gyomu/13106.html>

「ひがしうら地域クラブ」町ホームページ URL

アンケート結果・広報資料

●中京テレビ「キャッチ！」の特集

令和6年10月3日（木）に、中京テレビの報道番組「キャッチ！」にて、本クラブが特集されたニュースが放送された。町内中学校の入学説明会やホームページでも紹介し、本クラブの広報活動の資料として活用している。

【URL】

<https://youtu.be/ZjaMRTTwMkE?si=rpxcVbUv9GI6RXQw>

【二次元コード】



【サムネイル】



【“経験広げる場”どう維持する？】
部活動の地域移行“成功”自治体へ...

444 回視聴・13 時間前

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）

【バレーボールクラブ】



【剣道クラブ】



【軟式野球クラブ】



【卓球クラブ】



【ハンドボールクラブ】



【サッカークラブ】



【柔道クラブ】

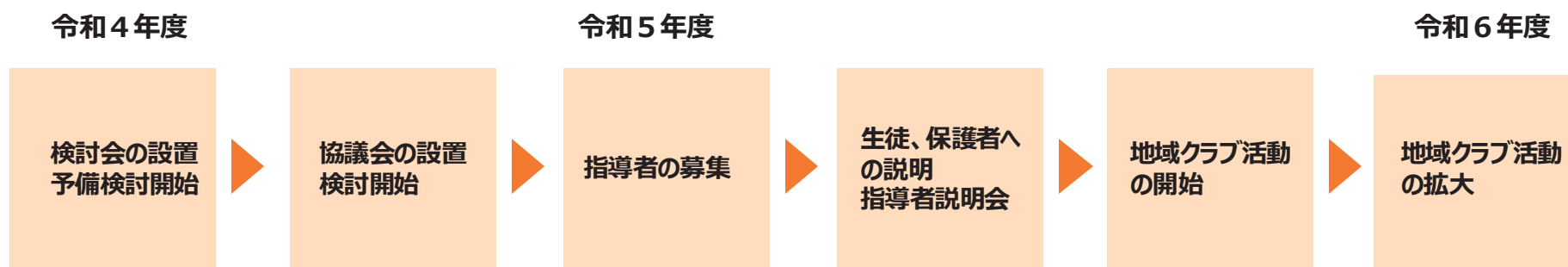


【バスケットボールクラブ】



2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



令和4年度

令和5年度から令和7年度を改革集中期間（のち改革推進期間）とすることが国から示されたことから、町で検討会・協議会を立ち上げ、検討を開始した。その中で、町内3中学校長の決定として、令和5年9月から休日に部活動の練習を行わないという部活動改革が行われることを把握したため、休日の活動機会を確保するために、町直営の地域クラブを設立する方針で意見がまとまった。

令和5年度

東浦町部活動の地域移行推進協議会を開催し、委員から意見を踏まえながら、町直営のひがしうら地域クラブの制度設計を行った。また、町内中学校で行われる部活動説明会や指導者説明会において、9月から開始するひがしうら地域クラブの説明を行った。

立ち上げ当初は、サッカークラブ、バスケットボールクラブ、ハンドボールクラブ、柔道クラブ、剣道クラブの5クラブで運営を開始した。令和6年1月に軟式野球クラブ、卓球クラブ、バレーボールクラブを追加で立ち上げ、現在の8クラブとなった。

令和6年度

前年度から継続して、ひがしうら地域クラブの運営を行った。

町内3中学校から、「令和7年9月以降は夏の大会以外は部活動として参加しない」「令和8年9月以降は、部活動として大会に参加しない」方針が示されたため、地域クラブ会員にも、練習試合や大会参加などのニーズが高まってくることが予想されたため、活動の拡大に取り組んだ。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

【新たな地域クラブの全体像】

活動のスケジュール

	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
教育委員会	「ひがしうら地域クラブ」拡充・活動拡大（競技力向上目的含・平日活動）の推進準備					
	（地域のスポーツ・文化芸術団体等）大会等への参加規程などの情報提供・活動支援					
	運営管理の拡充（大学・企業等への委託、連携、協力）					
ひがしうら 地域クラブ	休日のスポーツ・文化芸術活動（活動に親しむ目的）					
	会員のニーズに合わせた活動の発展（競技力向上目的含）					
	・新規クラブの設立 ・申込、支払い、連絡アプリ導入（試行的に） ・他チーム等との練習試合 ・高等学校等との合同練習	・新規クラブ設立 ・保険適応範囲の拡大（会員） ・他チーム等との練習試合 ・高等学校等との合同練習 ・大会等への参加（部活動に影響がないもの）	・他チーム等との練習試合 ・高等学校等との合同練習 ・大会等への参加（大会規定による）	・管理運営団体の選定 ・他チーム等との練習試合 ・高等学校等との合同練習 ・大会等への参加（大会規定による）	・管理運営団体の選定・決定 ・他チーム等との練習試合 ・高等学校等との合同練習 ・大会等への参加（大会規定による）	・管理運営団体の選定・決定 ・他チーム等との練習試合 ・高等学校等との合同練習 ・大会等への参加（大会規定による）
地域のスポーツ団体 文化芸術団体等への 働きかけ	・中学生受け入れ協力要請 ・「aispo!Do!」への登録要請 ・「まなびの森ひがしうら」への登録要請	・中学生受け入れ協力要請 ・「aispo!Do!」への登録要請 ・「まなびの森ひがしうら」への登録要請 ・大会等の参加規程の情報提供	・東浦町公認団体の認定（※案） ・活動支援（活動場所等）（※案） ・大会等の参加規程の情報提供 ・大会等の参加へのサポート	・東浦町公認団体の認定（※案） ・活動支援（活動場所等）（※案） ・大会等の参加規程の情報提供 ・大会等の参加へのサポート	・東浦町公認団体の認定（※案） ・活動支援（活動場所等）（※案） ・大会等の参加規程の情報提供 ・大会等の参加へのサポート	・東浦町公認団体の認定（※案） ・活動支援（活動場所等）（※案） ・大会等の参加規程の情報提供 ・大会等の参加へのサポート

第1期

第2期

第3期

《将来的なビジョン》

★「ひがしうら地域クラブ」の活動については、各クラブの実態に応じて、休日だけではなく、平日にも活動を展開していくことを検討していきます。

★「ひがしうら地域クラブ」の発展状況によって、小学生も参加可能とし、小学校から中学校への進学時期にも継続して活動に取り組める仕組みを構築していきたいと考えています。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

愛知県 南知多町

自治体名：愛知県知多郡南知多町

担当課名：教育課

電話番号：0569-65-0711

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	38.25 km ²
人口	15,475 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	338 人
部活動数	11 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	なし
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	なし

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

南知多町では、令和 6 年度から段階的に部活動の地域展開を行う方針で準備を進めている。本年度 10 月より、現行部活動に指導者を派遣するため外部指導者の募集を開始した。しかしながら、採用できた人数は想定した人数よりも少なく、人員の確保が課題となっている。他にも、既存の地域団体で、中学生の受入れに対するノウハウを持つ団体が少ないことや、指導者や活動団体に対する謝礼や補助のための財源が十分に確保できないことも課題である。

今年度 2 月より開始した「みなみちた公認地域クラブ認定制度」により、既存の地域クラブや新規に設立するクラブで、部活動の代わりになりうるクラブを、認定し、地域クラブの設立を目指している。本町として

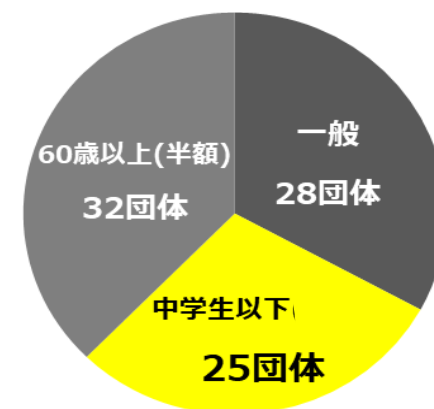
は、この公認地域クラブに中学生が所属することが部活動地域展開のゴールと考えている。

本制度については、反響もあり、これから認定団体が増えていくと想定されるが、公認地域クラブへの補助をどのように充実させていくかが課題となっている。

今後は、既存のスポーツクラブ団体のうち中学生が所属している団体を中心に、公認地域クラブへ認定できるよう制度の周知を図っていく。

南知多中学校	野球部
	サッカー部
	バスケットボール部
	男子バレーボール部
	女子バレーボール部
	卓球部
	吹奏楽部
篠島中学校	美術部
	野球部
	バレーボール部
	ボランティア部

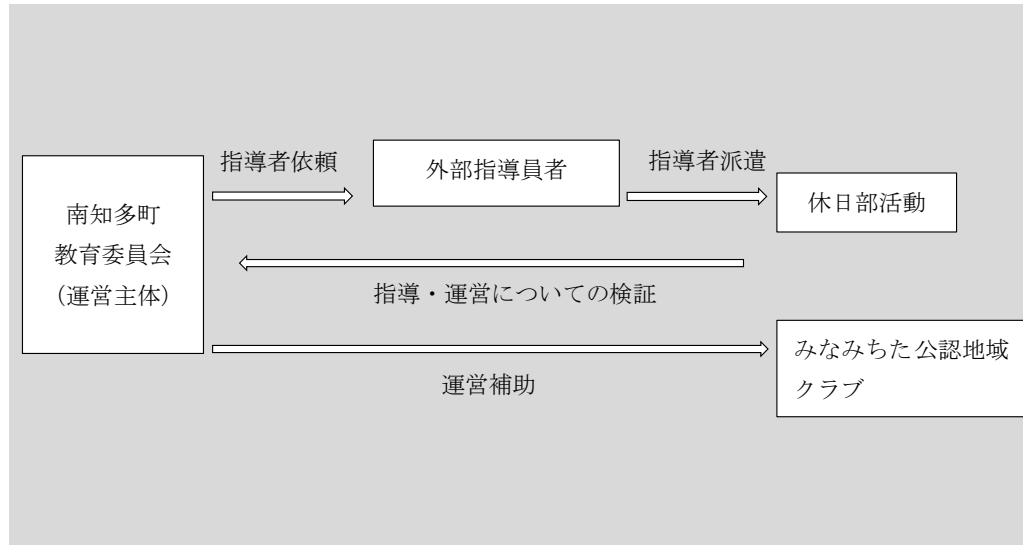
既存のスポーツクラブ団体（85団体）



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

地域展開に関する運営全般を行う。

◎首長部局

年間の事業スケジュール

令和6年4月	生涯スポーツ等人材バンク（のちの外部指導者）の登録制度開始
令和6年10月	休日部活動における外部指導者設置制度開始
令和6年10月～通年	外部指導者に対する研修を実施
令和7年2月	みなみちた公認地域クラブ登録制度の開始

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	4 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（ 0 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導者数	7 人	全体の運営スタッフ数	7 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾に （新）を付ける	実施回数	実施時 間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導 者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
南知多FC	地域クラブ	サッカー	月 4 回／ 週 1 回	16:00 ～ 18:00	1年生10名 2年生10名	令和6年 4月～令 和7年3 月	南知多中学校 グラウンド	2 人	2 人 （内、兼務0 人）	月会費 0 円 ／ 年会費 0 円 （など）	中体連：部活 動 その他：部活 動
スイセン	地域クラブ	男子バレーボ ール	月 4 回／ 週 1 回	19:00～ 22:00	1 年生5名 2年生10名	令和6年 4月～令 和7年3 月	南知多中学校 体育館	2 人	2 人 （内、兼務0 人）	月会費 0 円 ／ 年会費 0 円 （など）	中体連：部活 動 その他：部活 動
ひまわりジュ ニア	地域クラブ	バスケットボール	月 4 回／ 週 1 回	16:00 ～ 18:00	1年生3名 2年生7名	令和6年 4月～令 和7年3 月	南知多中学校 体育館	2 人	2 人 （内、兼務0 人）	月会費 0円 ／ 年会費 0 円 （など）	中体連：部活 動 その他：部活 動
駅伝クラブ	地域クラブ	陸上	月 8 回／ 週 2 回	19:30～ 21:30	1 年生1名 2年生2名	令和6年 9月～令 和7年12 月	南知多町運動 公園	1 人	1 人 （内、兼務0 人）	月会費 0 円 ／ 年会費 0 円 （など）	愛知駅伝に町 代表として参加

③その他、体験会やイベント等の開催実績 →随時、体験・見学を実施

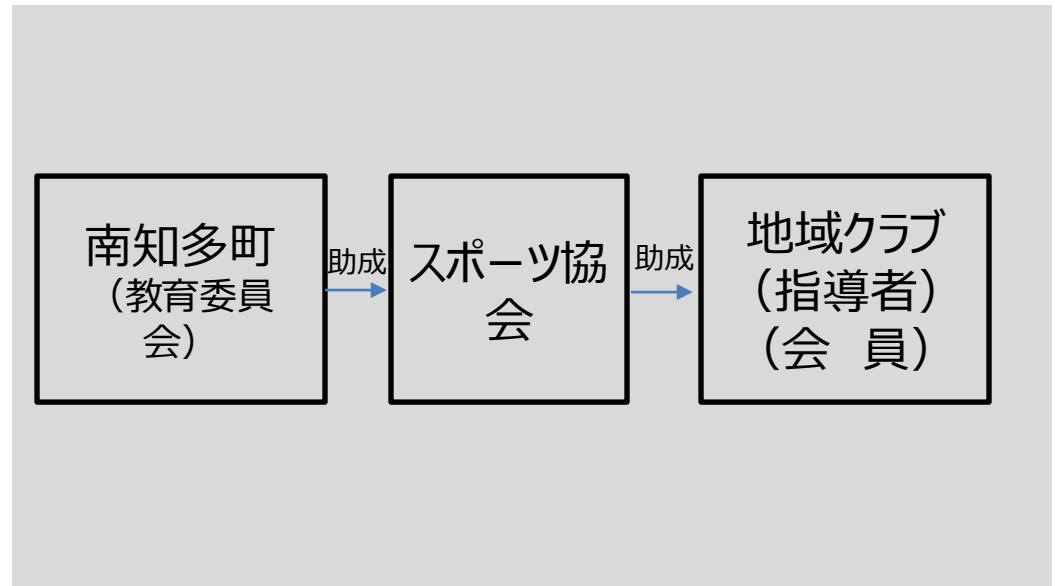
2.実証内容と成果

主な取組例

●地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、バレーボール、バスケットボール
運営団体名	南知多FC,スイセン, ひまわりジュニア
期間と日数	サッカー：4月1日～3月31日 月4回程度
指導者の主な属性	地域住民
活動場所	町内のグラウンドや体育館
主な移動手段	町営バス（海っ子バス）
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：0円 バレーボール0円 バスケットボール0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

指導者：地域クラブに係るすべての運営

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

教育委員会の地域展開担当者が、既存地域クラブの活動に顔を出し、中学生の受入れ（部活動の代わりとなりうる地域クラブの運営）ができるかを協議した。みなみちた公認地域クラブの運営団体・実施主体はあくまでも個別のクラブとした。教育委員会が認定を行い、それに対し助成をすること。以上のような体制の整備を行った。

取組の成果

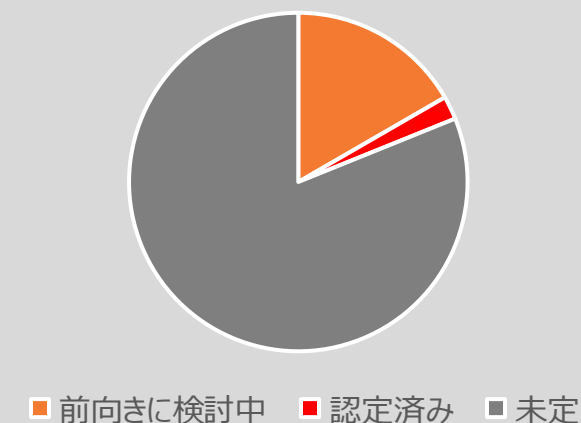
みなみちた公認地域クラブの制度は令和7年2月中旬に創設され、その後地域の既存の地域クラブ団体や新規の設立を検討する指導者と協議し、連絡調整したところ、17の団体が「南知多公認地域クラブ（部活動の受皿となるクラブ）」を立ち上げたい、という方向で話をつけることができた。

そのうち現段階では2団体が教育委員会に認定されて、すでに活動をしている。

さらに他の団体も今後1ヵ月以内には申請が出てくる予定である。

来年度からも引き続き、公認地域クラブへの登録制度を普及していく。

みなみちた公認 地域クラブ登録状況



コーディネーターの具体的な動きの実績

設置なし

今後の課題と対応方針

今後、部活動の受皿となりうる地域クラブとして活動する「みなみちた公認地域クラブ」は、どのような位置付けで活動してもらうのかのルールを明確にする必要がある。また、各クラブごとで運営をしていくので、クラブ間の格差が広がっていくが、平準化できるような手立てを考えていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

部活動や地域クラブに派遣する外部指導者を人材バンクを通して募集した。広報やケーブルネットワーク、HP、回覧、説明会など、様々な方法で広く募集した。
愛知県の人材バンクも活用し、採用することもできた。

人材バンクの人数

14名

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	5名
30代	2名
40代	3名
50代	2名
60代以上	2名

登録者属性

職業は学生・主婦・会社員・自営業など様々である。人材バンクは各種広報媒体で募集したが、人伝いで知った応募が多かった。

種目

野球 2名
バスケットボール 4名
バレーボール 5名
卓球部 2名
吹奏楽部 1名

資格有無

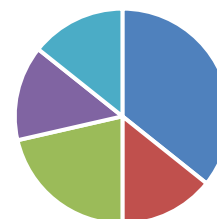
バスケットボールの指導者・審判員の資格保有者あり。それ以外はなし。

取組の成果

人材バンクに登録することにより、部活動への外部指導者や、地域クラブの指導者となる人材を確保することができた。人材バンク制度については、広報やケーブルネットワーク、HP、回覧、説明会など、様々な方法で広く募集したが、実際には人伝いで声をかけて登録してもらった方がほとんどであった。地域で活躍していただけるような人材は、すでにどこかで活躍していることが多く、既存の地域クラブ団体に話をし回ることで、様々な情報を得ることができた。

また、人材バンクに登録した年代は、20代が一番多く、今後持続させていくために必要な若い人材を獲得することができた。

人材バンクの年齢構成



■ 20代 ■ 30代 ■ 40代
■ 50代 ■ 60代以上

【募集要件】18歳以上で、情熱と経験のある方
【期 間】4月から翌年3月まで 年度途中の応募OK！
【募集種目】野球・サッカー・バスケ・バレー・卓球・吹奏楽・美術
※その他の種目についても歓迎しますが、部活動がないため、部活動とは別に地域クラブの創設を検討します
【活動内容】技術指導・対外試合の引率・活動日誌の作成等
【基本条件】原則、月に4回、休日の部活動を指導していただきます
【派遣までの流れ】登録→面接→マッチング→採用→研修→派遣
南知多町教育課 0569-65-0711(内線558)msyakyuu@town.minamichita.lg.jp 担当：森下

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

本町独自に、南知多町外部指導者研修マニュアルを作成し、外部指導者に個別で研修を実施した。

研修の内容は、・制度の概要・サービス（体罰・ハラスメント防止/飲酒の禁止/守秘義務/SNSの注意点）・生徒の健康管理と新入生や女子生徒への配慮（生徒の心身の健康管理/新入生への配慮/女子生徒への配慮）・安全対策の考え方と事故発生の未然防止（運動・スポーツにおける事故の要因/健康管理/部活動間の危険性の共通理解/施設・設備・用具等の安全点検/安全配慮/生徒の危険予見・回避能力の育成）・事故が発生した場合の現場対応（応急処置及び安全確保/保護者への対応/生徒へのケア）・熱中症への対応（起こりやすい条件/予防/WBGTについて/熱中症対策フロー）・落雷事故の防止

指導者研修の参加実績

・開催日： 10/5・10/12・11/9・11/30・12/14・1/18・1/25
・開催回数： 2回/ 1回/ 1回/ 1回/ 1回 / 1回 / 1回 計8回
・参加人数： 2人/ 1人/ 1人/ 1人/ 1人 / 1人 / 1人 計8人
人材バンクに登録後、面接をして採用となり、学校と調整し、活動日が決まった段階で個別に研修を実施した。

受講者の声

受講者は、既に中学生と関わっている方も多く、基本的なことはすべて理解していた印象だった。

学生など、経験が少ない受講者に対しては、事故発生時の応急処置や対応方法、ハラスメント防止など、特に入念に研修を行ったが、真剣に受講していただくことができた。学生の受講者は、「経験は少ないが、周りの経験者の言うことをしっかり聞いて万が一に備えたい」と話していた。

今後の課題と対応方針

他市町から聞こえてくる課題として、「研修を受講しないと指導が出来ないが、その研修が年に1度しかなく、次に受講できるまで最大1年近く待つ必要がある。」、「研修を受講するために仕事を休まないといけない。」というものがあったが、本町では研修を一人ひとり実施したためスムーズに指導まで進めることができた。担当職員には少し負担となるが、来年度からもこの対応方針で進めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

町の補助団体であるスポーツ協会や文化協会に対し、連携できるような取り組みを考案した。

取組の成果

町の補助団体であるスポーツ協会や文化協会に対し、人材バンク登録制度の説明をし、各会員へ情報共有をしてもらった結果、運動部・文化部ともに必要な指導者の8割程度を集めることができた。

また、スポーツ協会からは、外部指導者への謝金や保険料を助成してもらえよう調整し、20万円を助成をしていただいた。

ある程度の成果があったことで来年度以降は、スポーツ協会より「クラブ活動費や保険加入費等」の助成を受けられる方向で調整を進められている。

バス等の運行実績

・日数 0日
・利用者数 0人
・運行経路
実績なし

今後の課題と対応方針

町内で地域展開に関係してくる団体として主たるものは、スポーツ協会や文化協会であるが、今後も密に連携し、連携を強化していく。

バス等については現状、利用する見込みがないが、今後町内の各地区をまたがるクラブが設立された場合は必要となるため連携のしかたなどを情報収集しておきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

部活動の受皿となりうる地域クラブの指導者を発掘するため、様々な教室をお試し開催した。

（チアダンス教室や体育教室、スポーツ鬼ごっこ教室、走り方教室、野球教室、囲碁ボール教室、バスケットボール教室、バレーボール教室など）

これらの教室については、教育委員会が主体となり、各地域から指導者を招いて開催した。

結果、反響があった教室の指導者からは、地域クラブ化をしたいという話があり、令和7年3月には登録申請が出てくる予定である。

活動の詳細

参加人数	延べ500人	指導者数	合計20人
属性			
具体的な内容	チアダンス教室や体育教室、スポーツ鬼ごっこ教室、走り方教室、野球教室、バスケットボール教室、バレーボール教室、囲碁ボール教室		
子供の声	● ちゃんとした指導者に教えてもらったので上手になれた ● 楽しかったので続けたい		
関係者の声	● 定期的で開催してほしい ● もっと回数を増やしてほしい		
運営経費	一部、謝金を支払ったケースもあるが、基本は経費0円で運営した。		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

複数種目で単発に開催した教室であるが、複数の参加者が楽しかったので続けたいという思いと、指導者側が続けたいという思いになった場合のみ、みなみちた公認地域クラブとして部活動の受皿となりうる地域クラブになるが、そういったケースが複数の教室から生まれた。

やはり指導者側にもクラブをやってみたいという気持ちがあっても、「実際に人が集まるのか？」という不安があったりするので、単発でお試し開催することでそのあたりの不安を解消することができた。

また、参加者側も、お試し体験をすることで、内容を知ることができ、最初はいいやだったけど、終わってからやってみたいという気持ちになったという参加者も見えた。

これまで地域クラブとして活動がなかった種目についても、新たにクラブを立ち上げることに繋がったため、お試しで教室を開催することは効果的であった。

今後の課題と対応方針

今後も、部活動の受け皿となりうる地域クラブの立ち上げに困っている指導者がいれば、教育委員会が主催となり、お試しの教室を開催する方針である。教育委員会主催となることで、教育委員会が企画、参加者募集、当日の運営を全てもつことができる。

指導者側はその種目を楽しませることだけに集中することができるため、気

軽に開催することができる。

また、町広報誌やHP、回覧なども教育委員会が情報発信することができることから、参加者も、一般の指導者がするよりは比較的多く集めることができる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

参加者費用負担を抑えるため、外部指導者謝金の財源確保や、施設使用料を全額減免するなどの対策を考案し、実施した。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

立ち上げに掛かる初期費用としては、多くが種目に使う備品や消耗品費であるが、既存の地域クラブの者を使用するため、現状でイニシャルコストがかかった場面はない。

今後、これまでなかった種目のクラブが立ち上がるとなった際には、そういったコストが掛かることも想定されるため、財源の確保を検討する必要がある。

■ランニングコストの分析

定期的に掛かる費用としては、施設の使用料が大半を占めるが、教育委員会では、みなみちた公認地域クラブ（部活動の受皿となりうる地域クラブ）が公共施設を使用する際には、その使用料を全額減免している。

また、指導者への謝金については、スポーツ協会から支出してもらうことができた。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

<クラブ運営に掛かる費用>

- ・施設使用料→教育委員会が全額減免
- ・指導者謝金→国の体制整備事業により補填
- ・備品・消耗品→既存の地域クラブのものを使用
- ・保険料(年800円)→受益者負担
- ・練習試合などの交通費→受益者負担

※負担額は種目によってまちまちなので試算できません

収支バランス

受益者負担が負担するのは、年800円の保険料と交通費のみなので、負担は少ないが、指導者謝金を国の体制整備事業に頼っており、町だけで運営することが困難である。

来年度以降は受益者負担及びスポーツ協会助成金を増額し、体制整備事業に頼らず運営できるよう調整が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

定期的に掛かる費用としては、施設の使用料が大半を占めるが、教育委員会では、みなみちた公認地域クラブ（部活動の受皿となりうる地域クラブ）が公共施設を使用する際には、その使用料を全額減免したことにより、クラブとして掛かる費用の大半を抑えることができた。

また、指導者への謝金については、スポーツ協会より助成をいただいたことにより、受益者負担なしで運営することができた。

今後の課題と対応方針

来年度は、外部指導者も増員が見込まれているため国の体制整備事業を活用する見込みであるが、再来年度からは国の体制整備事業がある保証はないため、外部指導者謝金の財源確保が課題である。

現在の地域クラブの指導者は無償で指導をしていただけると話す方が多いが、全部のクラブがそういうわけにはいかない。

スポーツ協会の助成を増額することも検討する必要があるが、まずは受益者負担額を増額させる方針で進めていく。

その際に受益者から不満の声が上がるようであれば、町の予算を確保することも視野に入れておく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

学校部活動の代わりとなりうる地域クラブであるため、学校施設は当然に使用できるものとして整備を進めている。現状は運動部活動ばかりであるが、卓球場や体育館、グラウンドについては既に活用している。

取組の成果

学校と協議し、既に活用している。

学校施設を活用することにより、学校部活動をそのまま地域クラブで引き継ぐことができる。サッカー部やバスケットボール部においては平日学校部活動終了後、そのまま地域クラブへ引き継いで活動している事例もある。

以前より学校開放運営をしているため、地域が学校施設を使用する体制が整っていたこともスムーズな活用につながった。

今後の課題と対応方針

今後、美術や吹奏楽のクラブが出来てきた場合は、美術室や音楽室を利用できるように調整を進めていく。

また、鍵の管理について、現在は施設外に設置したキーボックス中に施設の鍵を保管しており、団体にはキーボックスの鍵を貸与している。

今後はスマートロックなどを利用し、鍵の紛失や閉め忘れを防いだり、利便性の向上につながるような取り組みが必要である。

地域クラブの備品について、学校施設内に保管できるような調整も必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保 / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（イ）

部活動や地域クラブに派遣する外部指導者を人材バンクを通して募集した。回覧や広報、ケーブルネットワーク、説明会、HPなど、様々な方法で広く募集した。愛知県の人材バンクも活用し、採用することもできた。

取組の成果（イ）

人材バンクに登録することにより、部活動への外部指導者や、地域クラブの指導者となる人材を確保することができた。人材バンク制度については、回覧や広報、ケーブルネットワーク、説明会、HPなど、様々な方法で広く募集したが、実際には人伝いで声をかけて登録してもらった方がほとんどであった。地域で活躍していただけるような人材は、すでにどこかで活躍していることが多く、既存の地域クラブ団体に話をして回することで、様々な情報を得ることができた。

また、人材バンクに登録した年代は、20代が一番多く、今後持続させていくために必要な若い人材を獲得することができた。

今後の課題と対応方針

他市町から聞こえてくる課題として、「研修を受講しないと指導が出来ないが、その研修が年に1度しかなく、次に受講できるまで最大1年近く待つ必要がある。」「研修を受講するために仕事を休まないといけない。」というものがあったが、本町では研修を一人ひとり実施したためスムーズに指導まで進めることができた。来年度からもこの対応方針で進めていきたい。

取組事項（ウ）

町の補助団体であるスポーツ協会や文化協会に対し、連携できるような取り組みを考案した。

取組の成果（ウ）

町の補助団体であるスポーツ協会や文化協会に対し、人材バンク登録制度の説明をし、各会員へ情報共有をしてもらった。
また、スポーツ協会からは、外部指導者への謝金や保険料を助成してもらえよう調整し、20万円を助成をしていただいた。

町内で地域展開に関係してくる団体として主たるものは、スポーツ協会や文化協会であるが、今後も密に連携し、連携を強化していく。
バス等については現状、利用する見込みがないが、今後町内の各地区をまたがるクラブが設立された場合は必要となるため連携のしかたなどを情報収集しておきたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は、地域展開の初年度として、外部指導者の派遣（R6.10開始）や、みなみちた公認地域クラブ制度の創設（R7.2）を行ったが、どちらも年度途中の開始となり、年間を通して展開できなかったため、実績は見込みより少なくなってしまった。

しかしながら、実績は少なかったものの、地域展開のゴールが見えるラインまで到達することができた。

南知多町における地域展開のゴールとは、みなみちた公認地域クラブ（部活動の受皿となりうる地域クラブ）に小中学生が所属することである。この公認地域クラブが持続可能なクラブを目指しているため、小中学生は部活動の代わりとして活動することができる。町（教育委員会）も施設使用料を全額減免したりと補助を実施するなどして、みなみちた公認地域クラブを持続させていくことを目指していく。

●成果の評価

今年度は、地域展開の初年度として、外部指導者の派遣（R6.10開始）や、みなみちた公認地域クラブ制度の創設（R7.2）を行ったが、どちらも年度途中の開始となり、年間を通して展開できなかったため、実績は見込みより少なくなってしまったものの、地域展開のゴールが見えるラインまで到達することができたため、評価としては高評価である。

●今後に向けて

南知多町における地域展開のゴールである、みなみちた公認地域クラブ（部活動の受皿となりうる地域クラブ）に小中学生が所属することを目指し、様々な方法により複数の地域クラブを立ち上げることや、立ち上がった地域クラブを小中学生に宣伝することを進めていく。

また、活動費の面で国の体制整備事業に頼らずに運営できるよう、受益者負担の増額やスポーツ協会の助成金等を活用できるよう、調整を進めていく。

種目については学校部活動だけでなく、これまでにない新たな種目を立ち上げ、子どもたちが同時期に複数の種目を実施できるようなマルチスポーツ環境を整えていく。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

みなみちた公認地域クラブに認定されたクラブを掲載したパンフレットを作成し、定期的に小中学生へ配布することにより、会員の募集を図る。

令和5年度中に実施した、生徒を対象とした意識調査では、部活動を継続する前提としていたため、大半が継続となったが、これについては現状を踏まえ再度調査することを検討中である。



「みなみちた公認地域クラブ」メンバー大募集!!
地域や学年の違う子どもたちが集まり、ひとつの目標に向かって活動するなかで、互いに切磋琢磨し、友情を深めたり、人間関係を作ったり...と「青春」ができるクラブがたくさんあります!「仲間づくり・体力づくり・大会で上位を目指す」などさまざまな目的をもったクラブの中から、気になるクラブがあれば、ぜひ参加してみてください!
南知多町教育委員会教育課 Vol.1 令和7年4月1日発行

南 オール スターズ

●活動種目 軟式野球
●活動目的 競技力向上
●募集対象 小学4～6年生・中学生(男子)
●レベル 上級者(大会で上位を目指す)
●活動場所 南知多中学校グラウンド
●活動時間 毎週土曜/9:00-12:00
●会費 月3,000円(送迎費・備品費・保険加入費)
●形式 サークル・部活形式
●会員数 50名(うち指導者5名)
●世代比率 小学生40%・中学生60%
●アピール 野球の楽しさを味わいつつ、競技力や人間力を高め、大会上位入賞を目指すチームです。指示された野球ではなく、自ら考える野球をモットーとしています! 遠征は、スパイク・グラブ・ユニフォーム一式揃えていただきます。一緒に青春を楽しみましょう!



南知多ガールズ(仮申請中)

●活動種目 テニス
●活動目的 健康・体力づくり 仲間づくり
●募集対象 小学4～6年生・中学生(女子)
●レベル 初心者～中級者(体を動かす楽しさを学ぶ)
●活動場所 総合体育館サブアリーナ
●活動時間 毎週水金/19:00～20:30 予定
●会費 月1,000円(消耗品費・保険加入費) 予定
●形式 教室・スクール形式
●会員数 0名(指導者2名) 小学50%・中学生50%、一般20%
●世代比率 小学生50%・中学生50%、一般20%
●アピール 流行りの音楽に合わせて体を動かします。ほのめくても、誰れなくてもOK!とにかく楽しく踊りましょう!リズム感が鍛えられます。体験レッスンも随時開催しますので、お気軽にお問い合わせください。活動を開始します!



南 知 多 NANO HANA

●活動種目 バスケットボール
●活動目的 競技力向上
●募集対象 小学4～6年生(女子)
●レベル 中級者～上級者(楽しくやりながら大会出場)
●活動場所 総合体育館メインアリーナ
●活動時間 毎週土曜/10:00-12:00 毎週月・水/19:00-21:00
●会費 月2,000円(備品・消耗品・保険加入)
●形式 サークル・部活形式
●会員数 30名(うち指導者7名)
●世代比率 小学生100%
●アピール バスケの技術練習はもちろんですが、バスケットボールを通じて自分で考えて行動し、チャレンジしていく心を育てています。学校や学年が違う子どもたちが一緒に練習をしていく中で協調性や、相手を思いやる心が身につく、自然と、スポーツマンシップを学ぶことができます。



篠 島 料 理 ク ラ ブ

●活動種目 料理
●活動目的 仲間づくり
●募集対象 小学4～6年生・中学生・一般・シニア
●レベル 初心者～上級者
●活動場所 篠島開発総合センター
●活動時間 毎週日曜/13:00～16:00
●会費 1回約500円(材料費)
●形式 サークル・部活形式
●会員数 30名(うち指導者2名) 小学生20%・中学生20%、一般30%・シニア30%
●世代比率 毎週日曜のお昼に集まって、料理を作り、簡単なものから、進んだものまで、会員で話し合って料理を作ります。参加した時だけ材料費として会費を集めています。講師は、お店の料理人が勤め、プロの味を教えてくださいることができます。



休日部活動の地域移行にかかる生徒意識調査まとめ

① あなたの通っている中学校を教えてください。	南中	篠中
南知多中学校	157	
篠島中学校	24	
② あなたの学年を教えてください。	南中	篠中
1年	81	11
2年	76	13
③ あなたの性別を教えてください。	南中	篠中
男	75	12
女	78	12
回答なし	2	0
④ 現在所属している部活動を教えてください。	南中	篠中
野球	18	10
サッカー	27	0
バスケット	16	0
男子バレーボール	23	0
女子バレーボール	18	10
卓球	23	0
美術	17	0
吹奏楽	10	0
ボランティア	0	4
所属していない	5	0
⑤ 部活動について、自分の考えに合うものを1つ選んでください。	南中	篠中
平日・休日ともに現在の部活動を継続する。	110	17
平日のみ現在の部活動を継続し、休日は活動を行わない。	29	4
平日のみ現在の部活動を継続し、休日は地域クラブ活動を行いたい。(月謝等、費用がかかります)	3	3
平日の部活動を行わず、休日のみ地域クラブ活動を行いたい。(月謝等、費用がかかります)	3	0
平日・休日ともに活動を行わない。	12	0
⑥ 活動したい地域クラブ活動があれば選んでください。	南中	篠中
ダンス	2	0
硬式テニス	0	0
ソフトテニス	0	0
空手道	0	0
書道	2	0
地域クラブ活動を行いたい、上記には活動したいものがない。	2	3

【アンケート結果】

出典:南知多町教育委員会が発出した
町内中学生を対象としたアンケート

【生徒への参加啓発チラシ】

出典:南知多町教育委員会作成

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【バレーボール教室の様子】



【キャッチボール教室の様子】



【チアダンス教室の様子】



【バスケットボール教室の様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



記載例>>>

●ステークホルダー

教育委員会、学校、スポーツ協会、地域クラブ団体

●経過

今年度は、地域展開の初年度として、外部指導者の派遣（R6.10開始）や、みなみちた公認地域クラブ制度の創設（R7.2）を行ったが、どちらも年度途中の開始となり、年間を通して展開できなかったため、実績は見込みより少なくなってしまったものの、地域展開のゴールが見えるラインまで到達することができた。

●実施にあたって生じた課題

みなみちた公認地域クラブの詳細なルール決めや、指導者への謝金財源の確保

●実施内容、工夫した点 等

小さな町である利点を生かし、ポイントとなる人物とは直接会って話し合いをしたり、外部指導者には1人ずつ研修を行ったりしたため、教育委員会の方針を詳細に伝えることができた。

さらに、新規に立ち上げを予定しているクラブには、教育委員会が主催となって単発の教室を開催したことにより、地域クラブの立ち上げを容易にすることができた。

また、みなみちた公認地域クラブに登録した団体は、施設使用料を全額減免することで、受益者負担を軽減することができた。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

南知多町部活動改革ロードマップ

部活

(休日※)

※平日部活動は実施する

外部指導者派遣制度

目標は、南中7種目、篠中2種目に各2名ずつ派遣すること
(R7.1現在、6種目12名を派遣中)

みなみちた地域クラブ公認制度

R8郡大会後、部活動種目についても
休日は地域クラブの設立を目指す。

R6
2024

9月

R7
2025

R8
2026

郡大会

R9
2027

地域クラブ

みなみちた地域クラブ公認制度

R7.4より地域のクラブについては先行して、
希望したクラブを公認していく。